

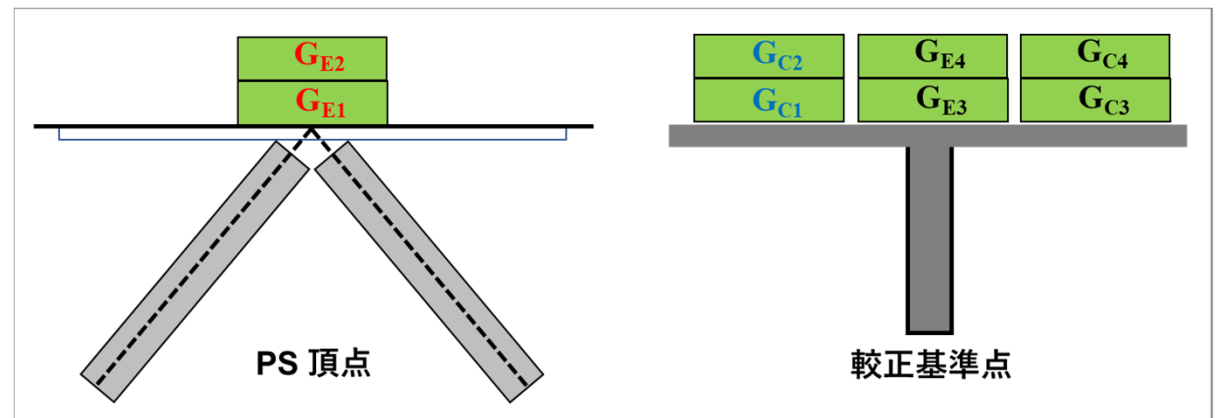
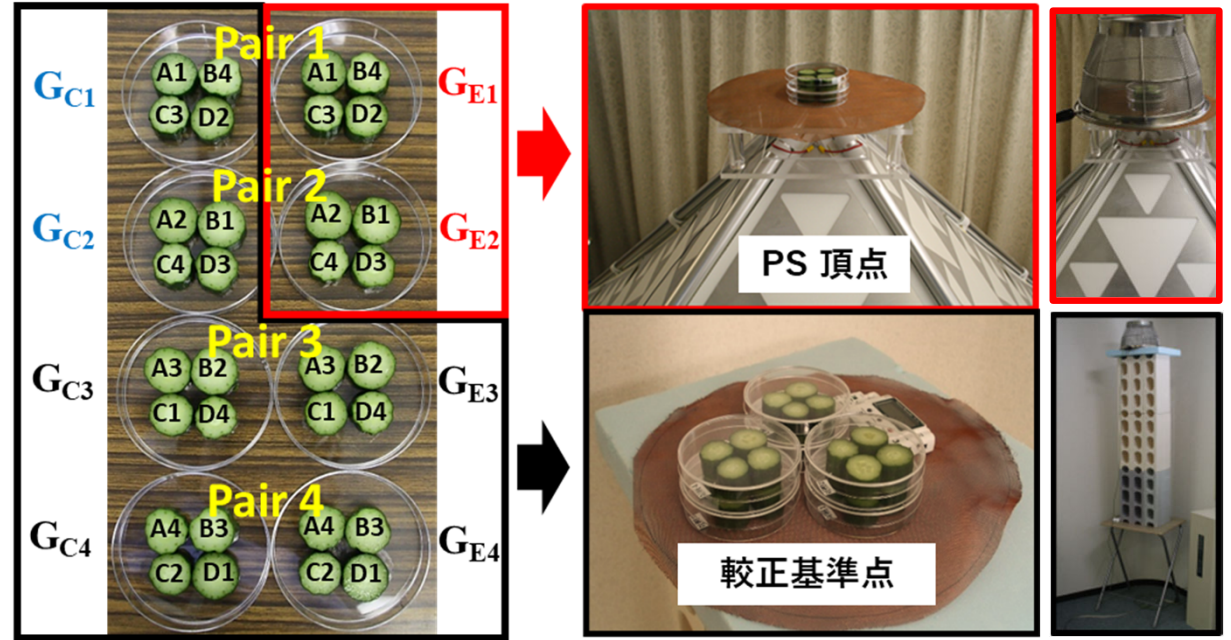
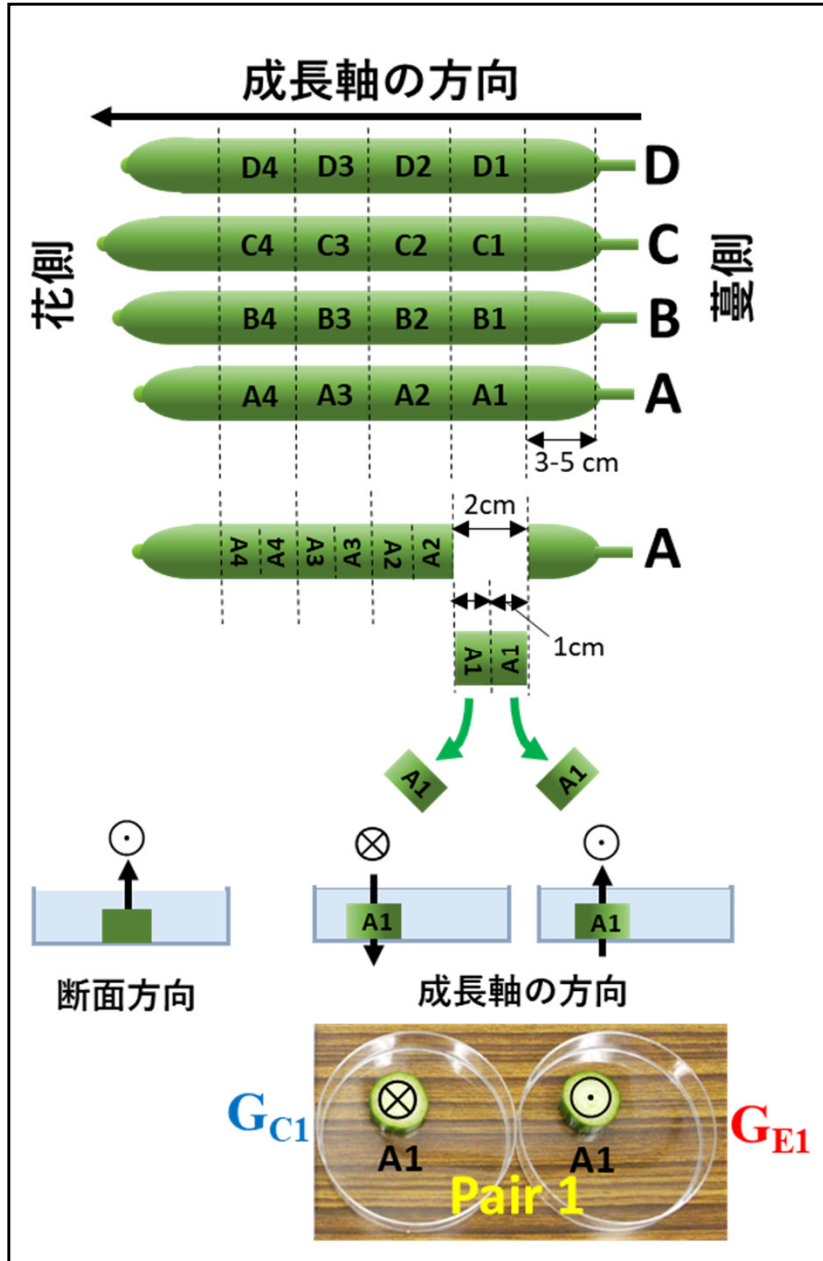
実験で使用しているピラミッド型構造物 (pyramidal structure: PS)



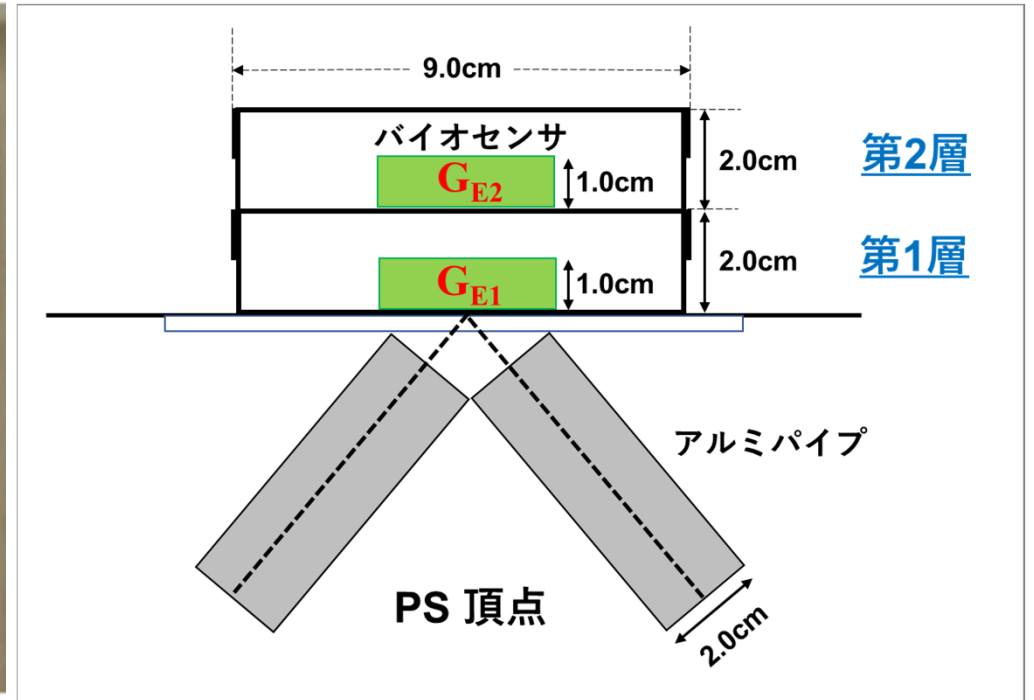
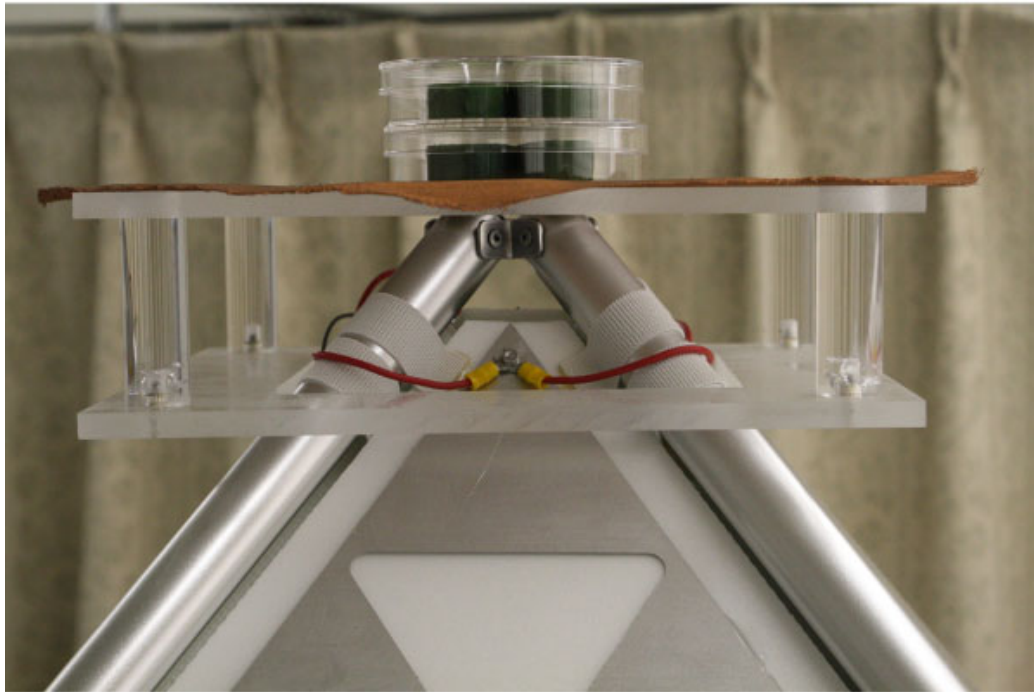
設置 2009/11/24 15:00

ピラミッドパワーを検出するセンサ：バイオセンサ

バイオセンサ(食用キュウリ切片)の準備と設置

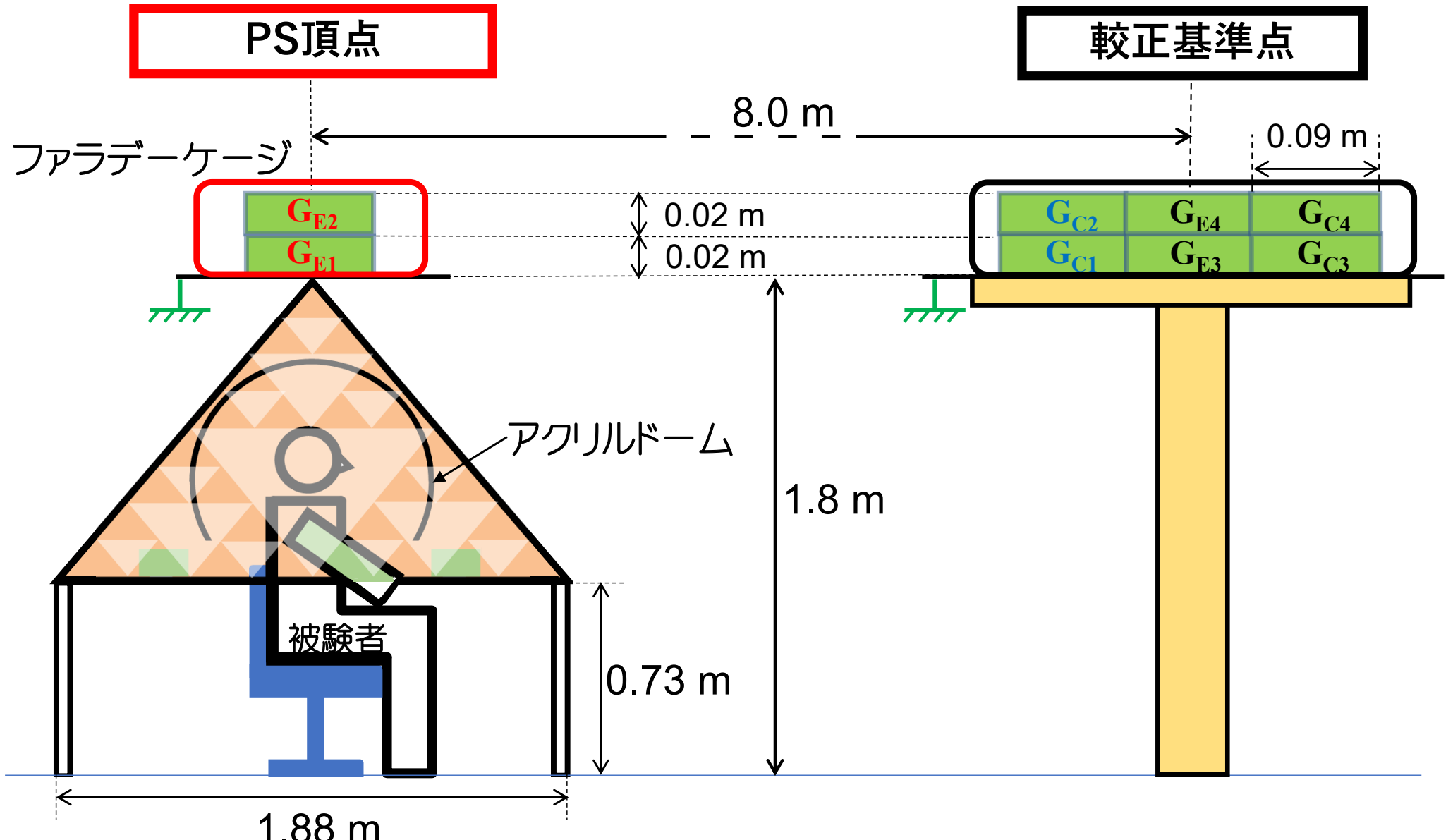


PS頂点に2段に重ねて置いたバイオセンサ

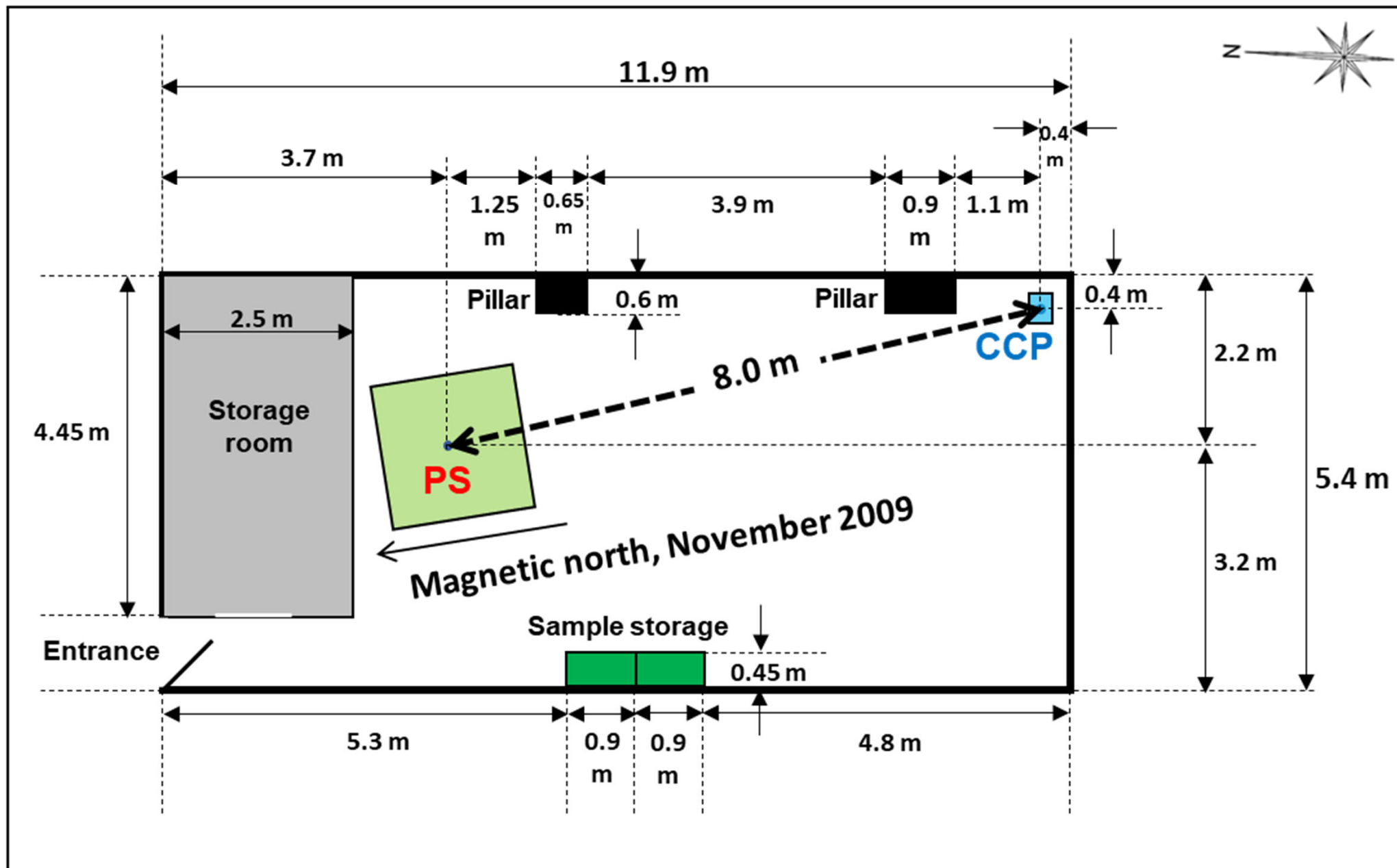


PS頂点と校正基準点へのバイオセンサの設置

設置時間は30分、その後バイオセンサを密閉容器に保管



実験室のレイアウト



バイオセンサの保管 (24h-48h)

保管中バイオセンサから揮発成分が放出される



ガス濃度測定



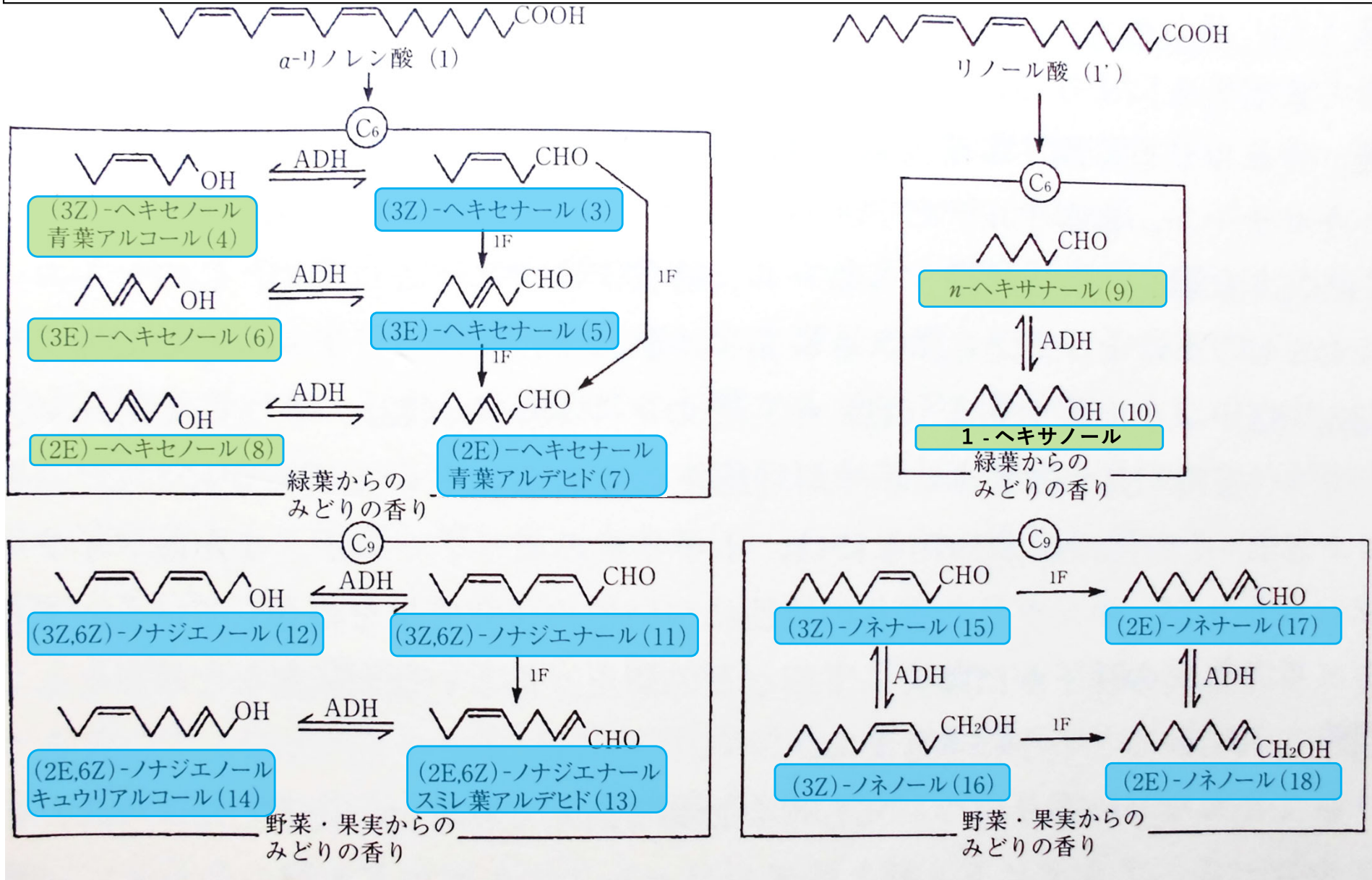
密閉容器から300 ml のガスを吸引
ペアどうし同時にガス測定をする

ガス検知器 (GV-100:ガステック、日本)
ガス検知管 (酢酸エチル検知管 141L:ガステック、日本)

キュウリから放出される香りガスの主な成分(16種)

ガス検知管141L:測定可能ガス 2-ヘキサノール

2-ヘキサノールの異性体の1-ヘキサノール、1-ヘキサノールの不飽和化合物である青葉アルコール(3種)、青葉アルコールと化学式が一致するn-ヘキサナール,が検知管に反応している可能性
 ガス濃度の絶対値が必要ではなくガス放出の変化に着目



ADH:アルコール脱水素酵素

畑中著「みどりの香り」p.137 2005

実験 (2つの実験条件)

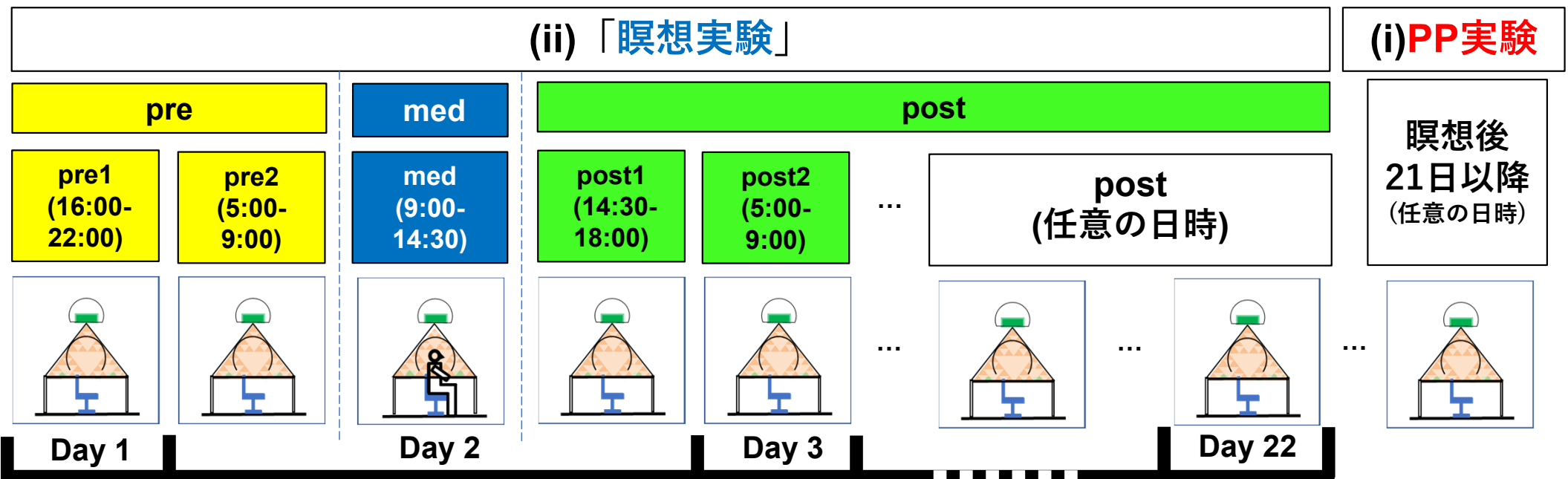
(i) 「ピラミッドパワー (PP) 実験」

瞑想の影響を除外し、ピラミッドの潜在力(ピラミッドパワー)を検出

(ii) 「瞑想実験」

人間 (被験者:坂本政道) がピラミッド内で瞑想

瞑想前 : pre, 瞑想中 : med, 瞑想後 : post

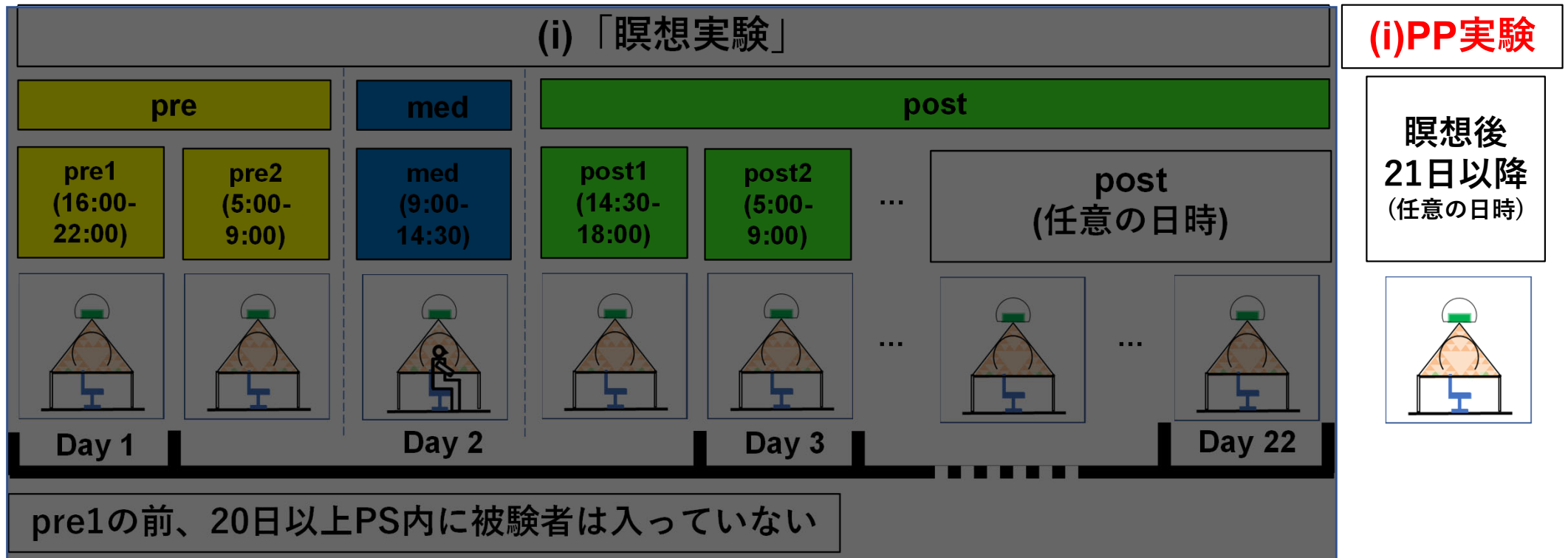


pre1の前、20日以上PS内に被験者は入っていない

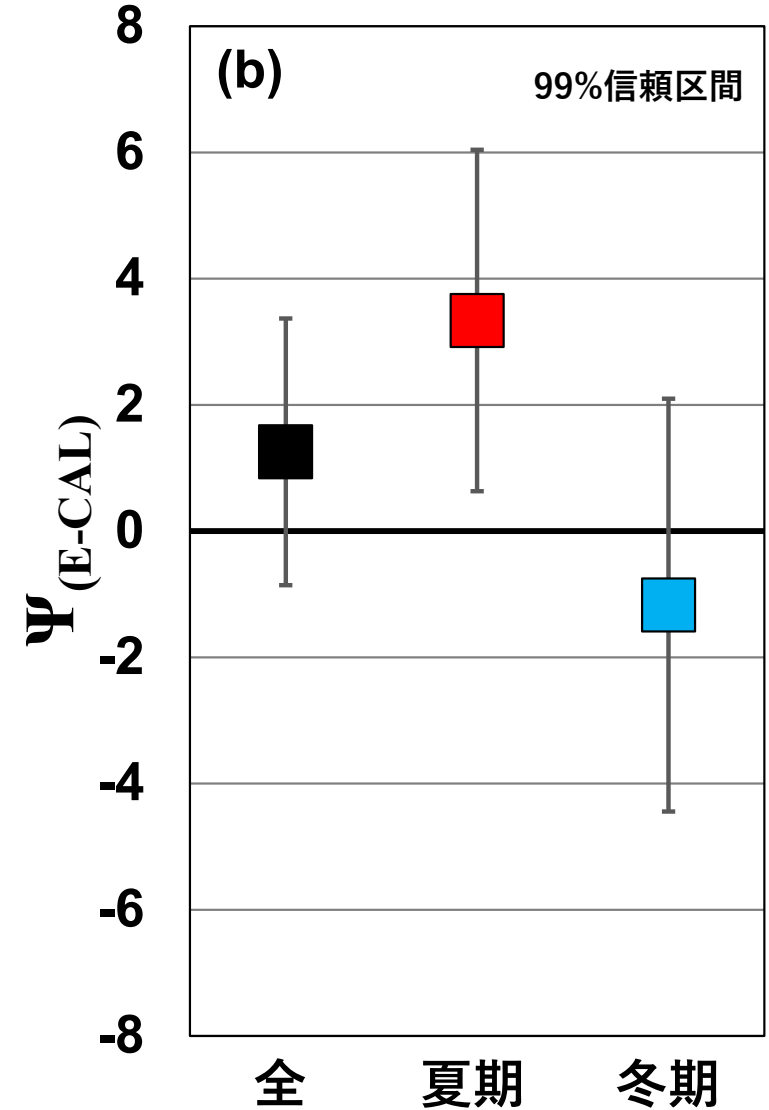
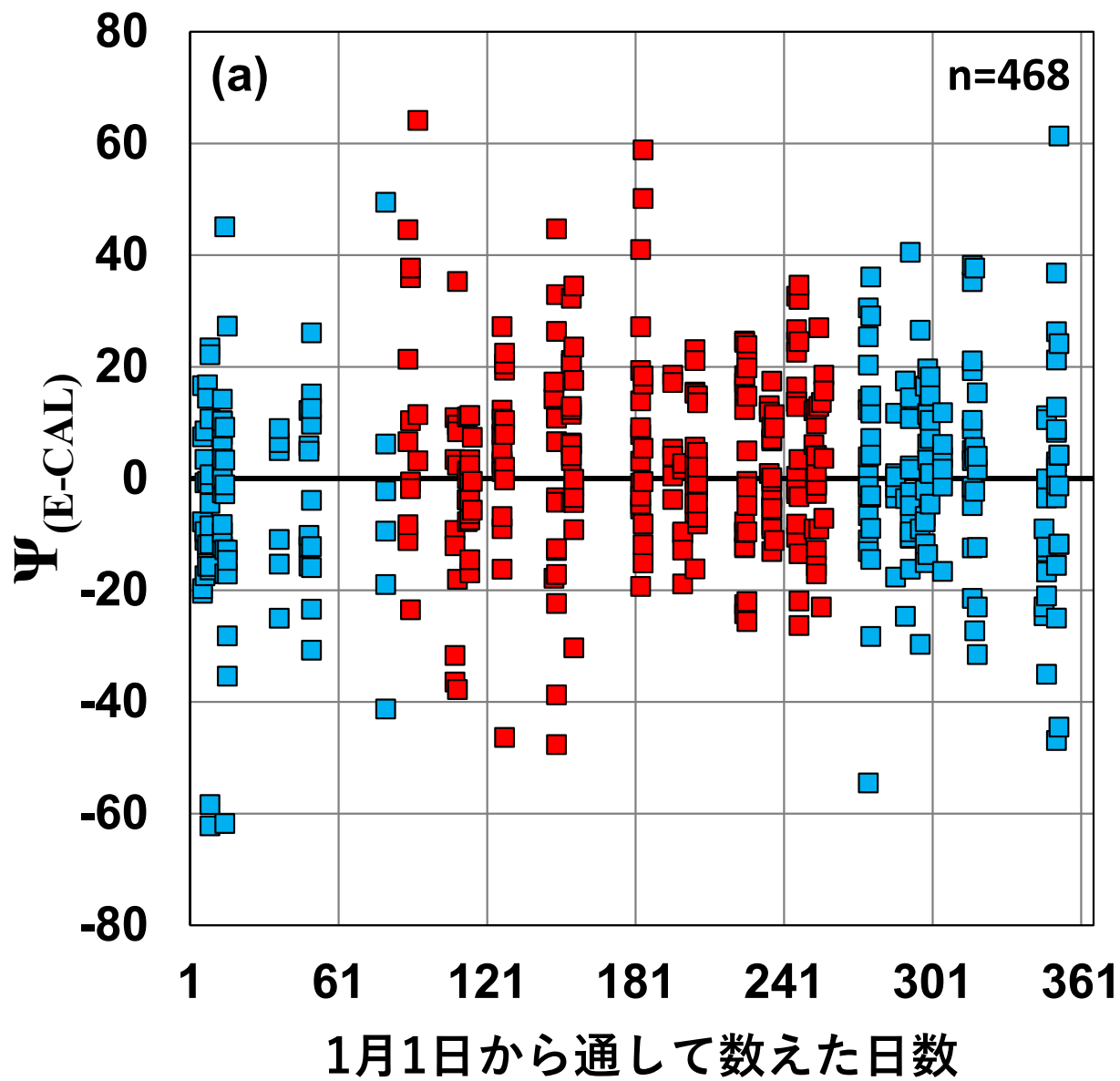
(i) 「ピラミッドパワー (PP) 実験」

ピラミッドの潜在力(ピラミッドパワー)を検出する
そのためには瞑想の影響を除外する必要がある

瞑想後21日以降に実験をおこなった



(i) PP実験

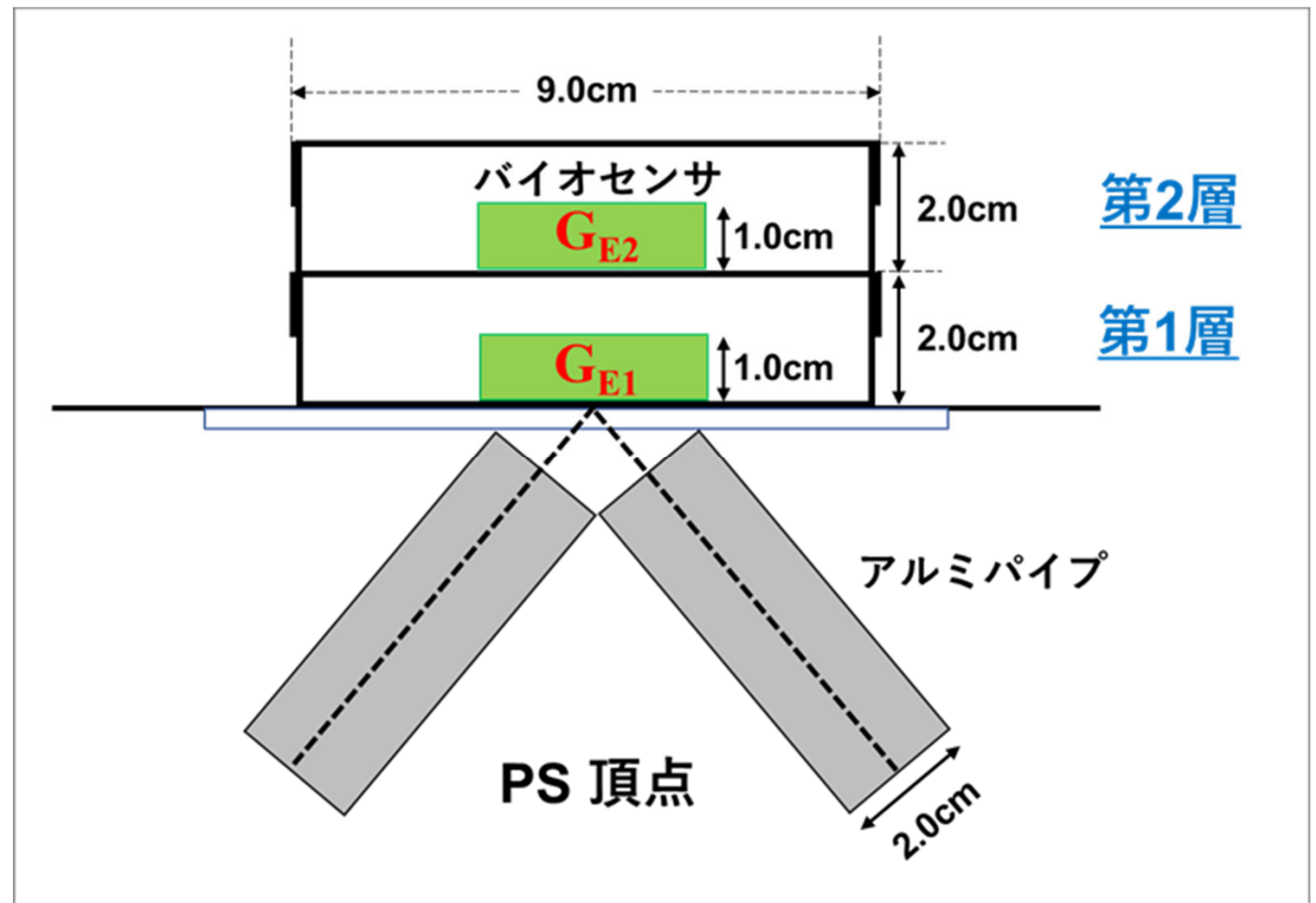
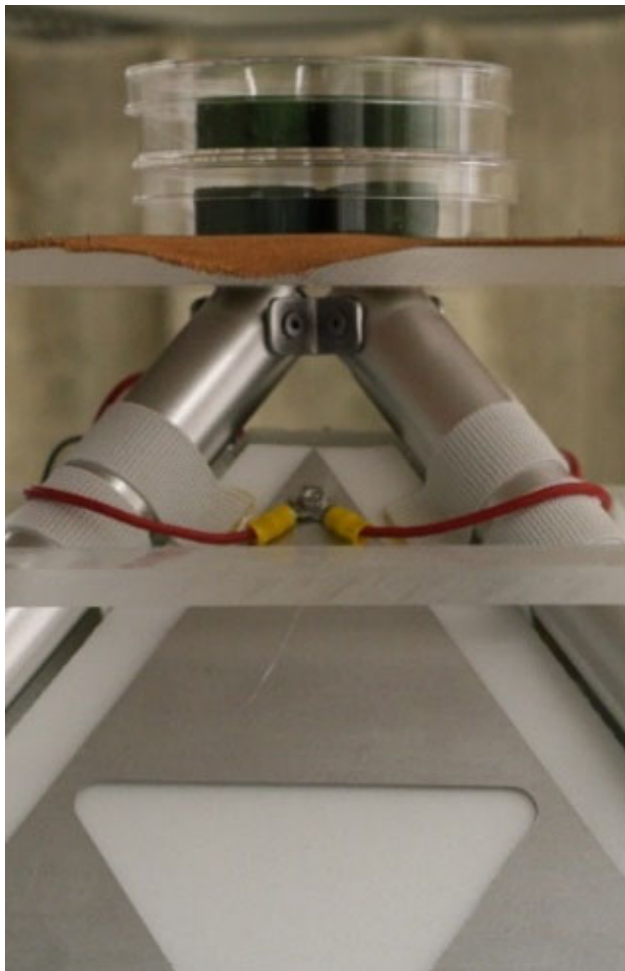


(a) 日付は、実験を行った各年の1月1日を1として数えた値(1-366)。赤が夏期データ($n=252$)、青が冬期データ($n=216$)
(b) 黒四角が全データの平均、赤が夏期データの平均、青が冬期データの平均 春分 3/21 : 81、秋分 9/23 : 267

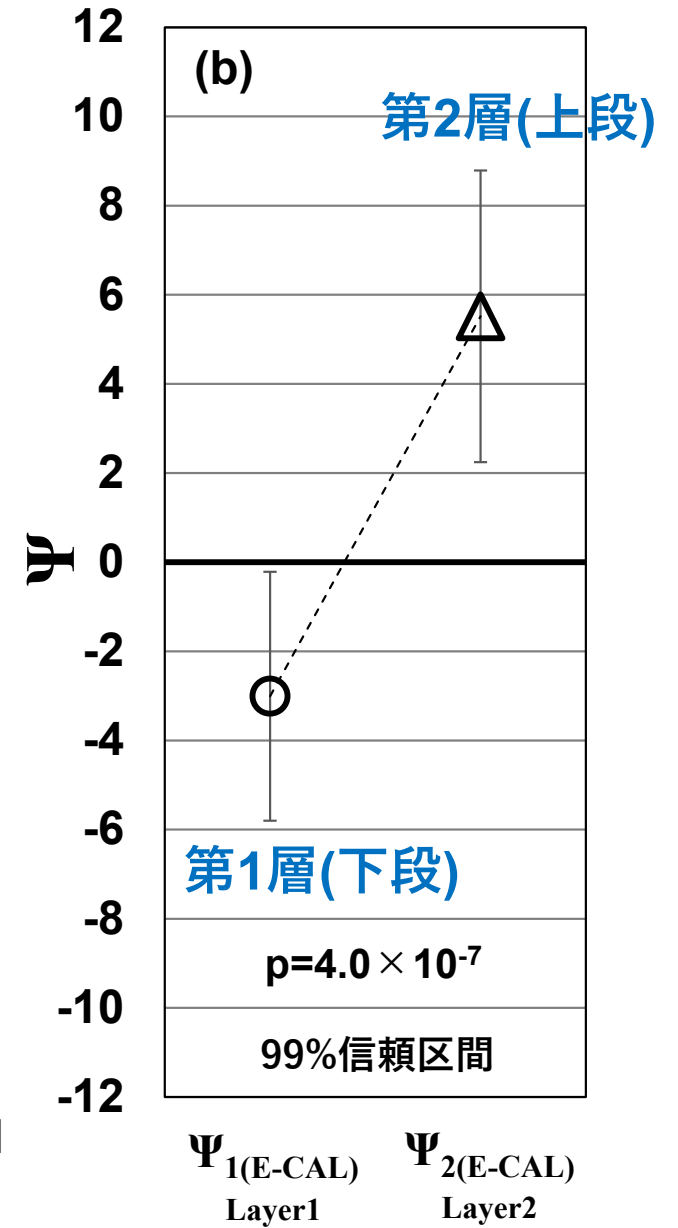
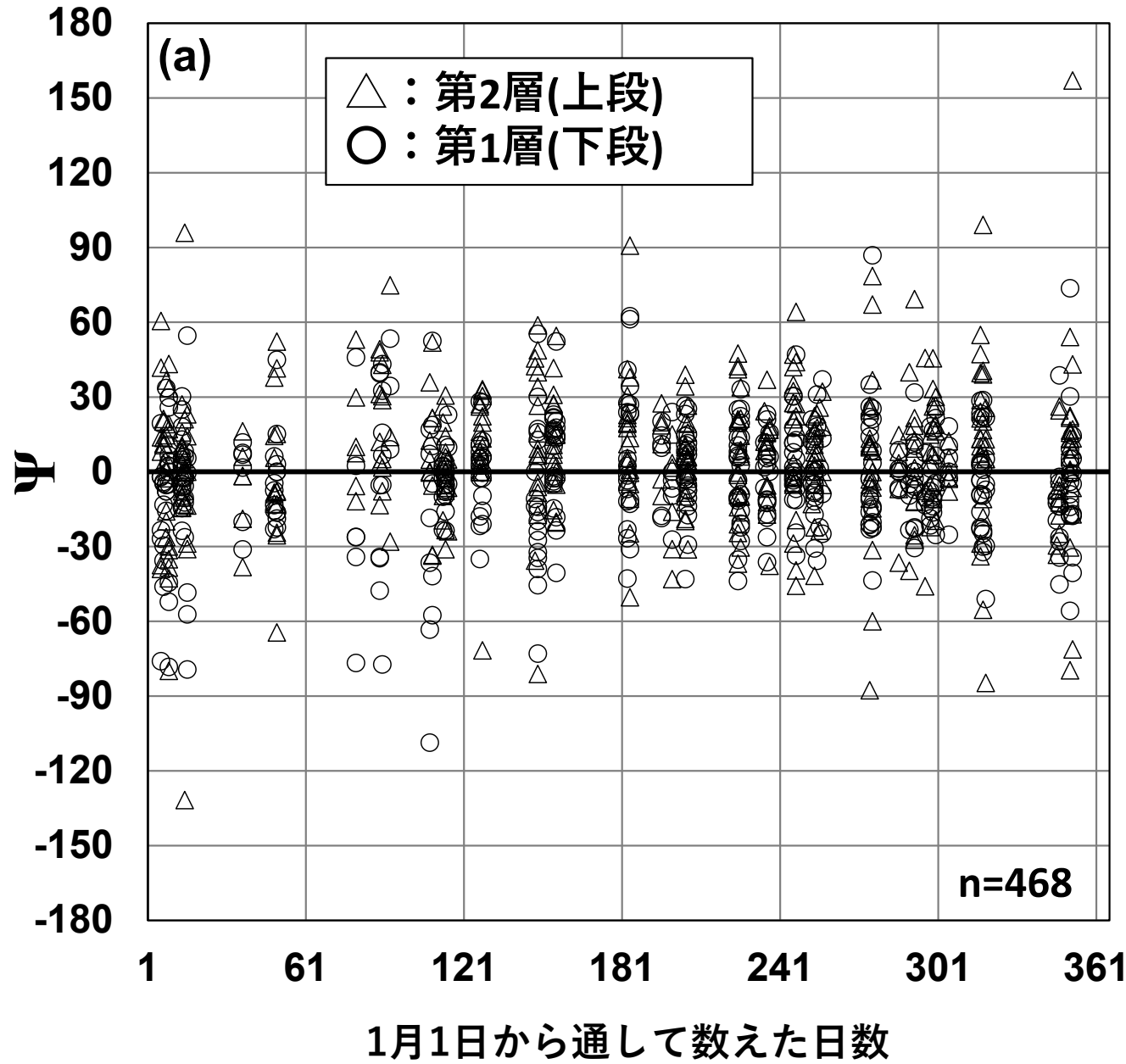
PSの潜在力(ピラミッドパワー)を1%有意で実証(夏期データ)

(i) PP実験

PS頂点：第1層（下段）と第2層（上段）を別々に解析

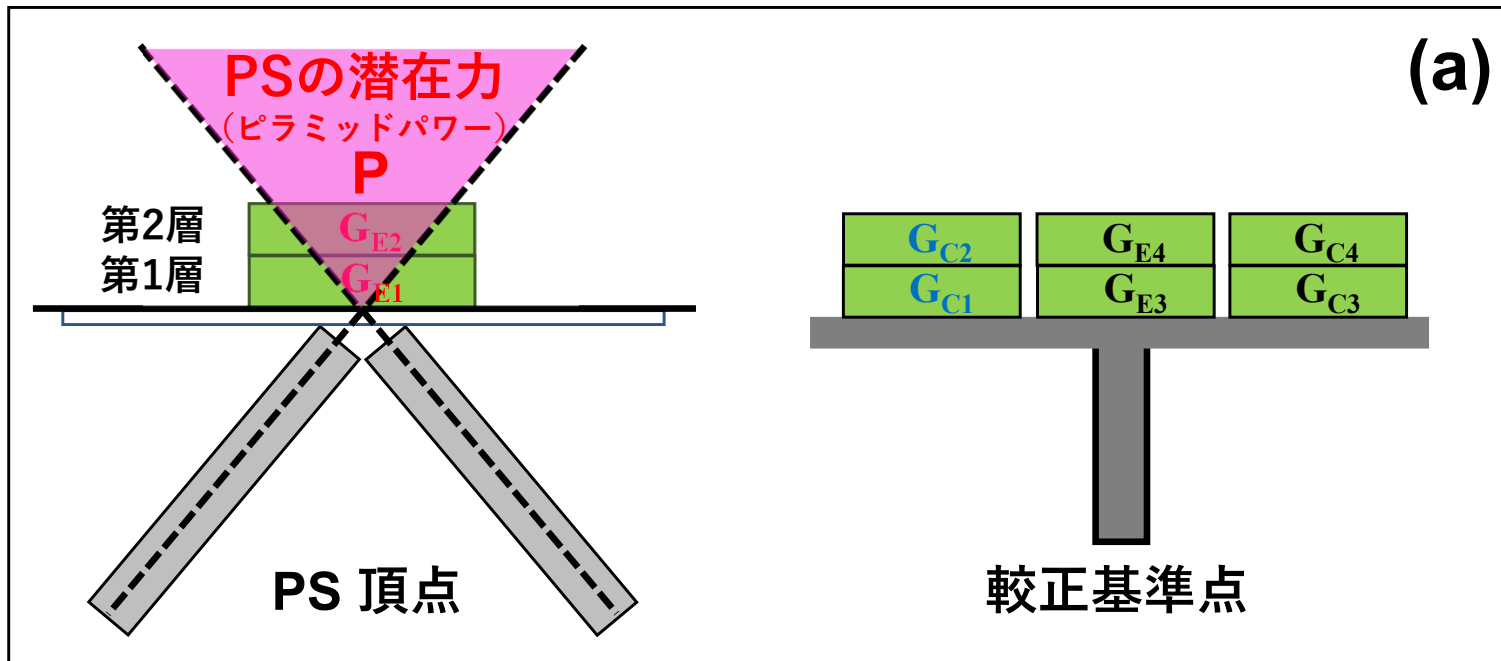


(i) PP実験



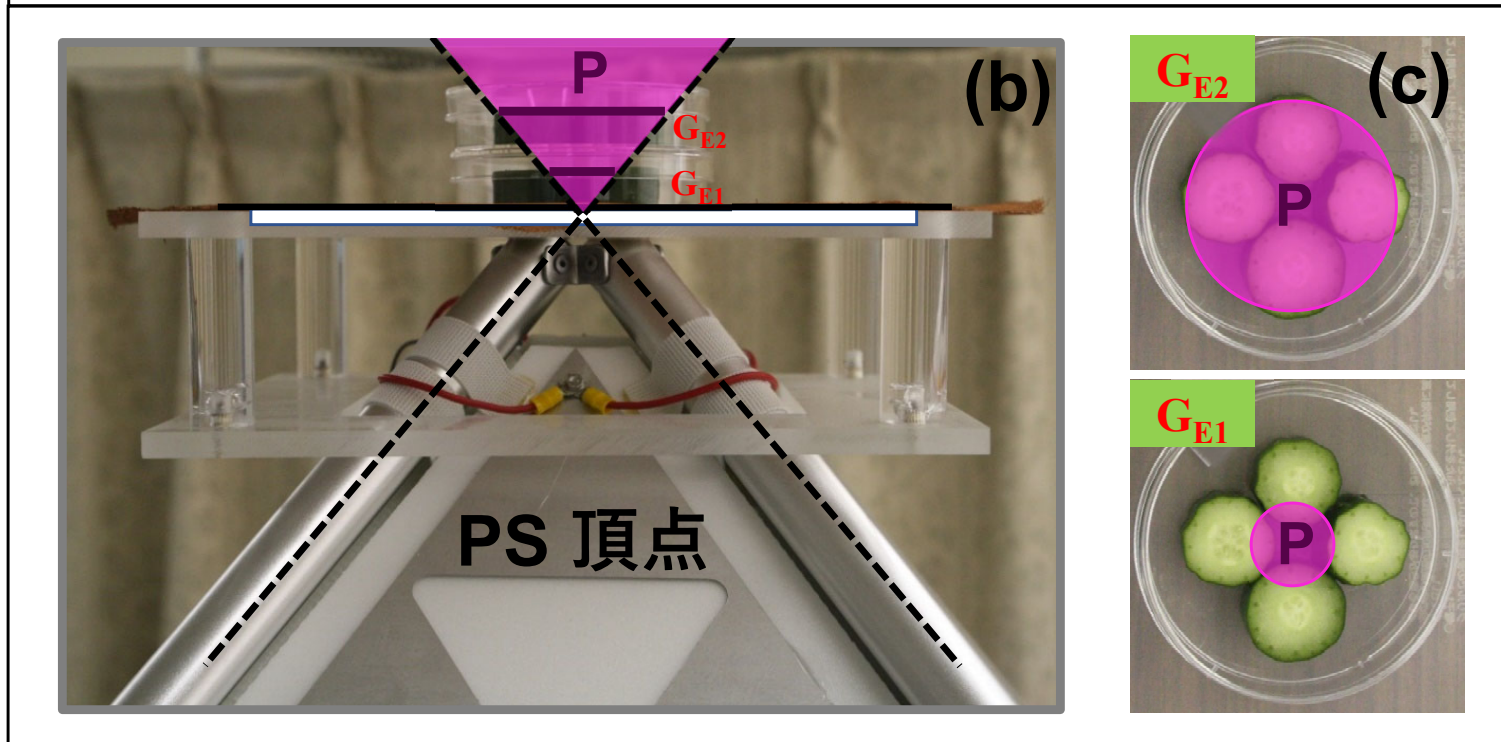
PS頂点に2段に置かれたバイオセンサ
第1層(下段)と第2層(上段)でピラミッド効果が異なる

第1層（下段）と第2層（上段）のバイオセンサ G_{E1} , G_{E2} に対する ピラミッド効果が異なることを説明するモデル



(a) PSの潜在力（ピラミッドパワー） P は、PS頂点から円錐形に広がっていると仮定。

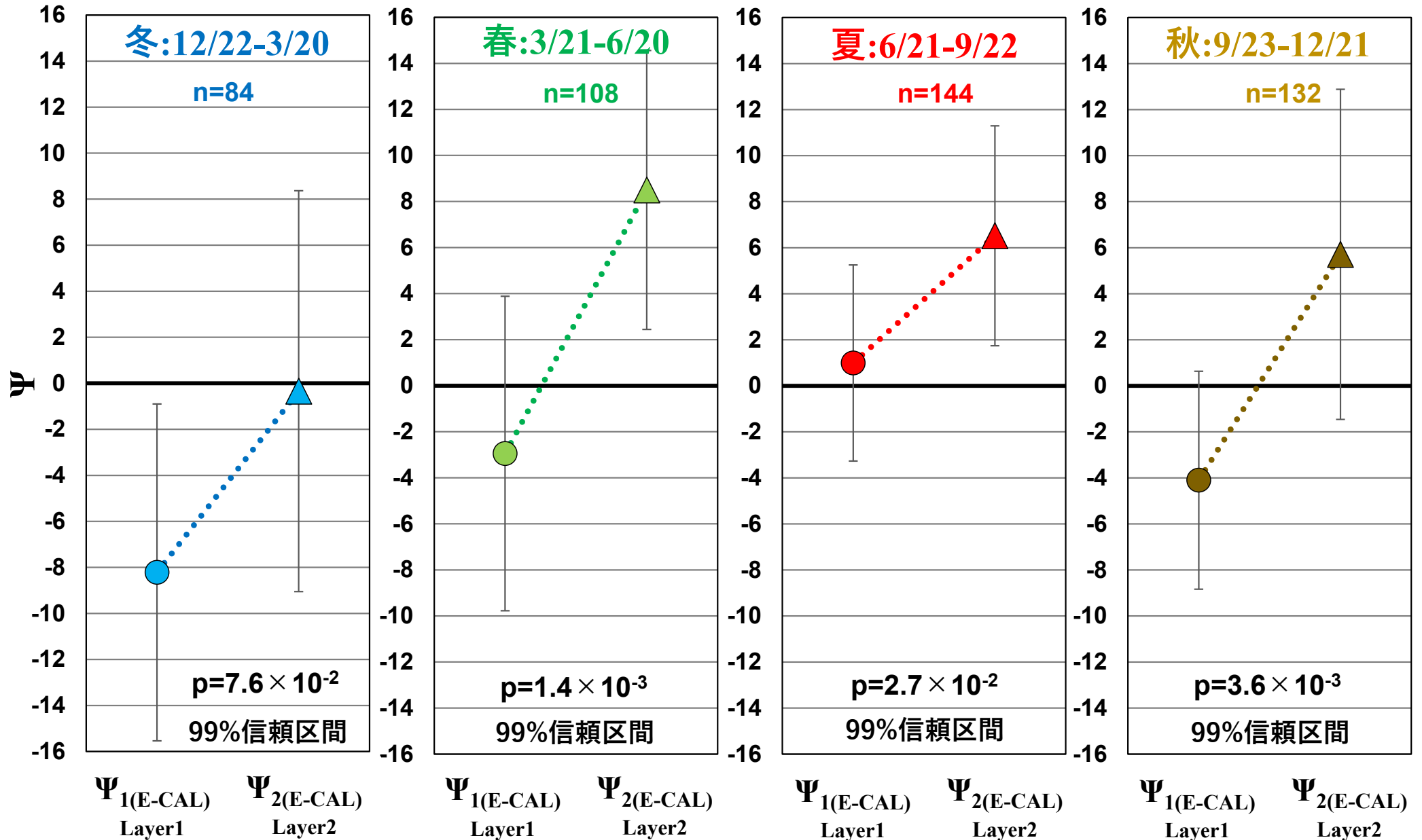
第1層（下段）の G_{E1} に対しては、ペトリ皿中の4個のバイオセンサの一部にしか P の影響が及ばない。



(b) (c) 第2層（上段）の G_{E2} に対しては、ペトリ皿中の4個のバイオセンサの全面に P の影響が及んでいる。

この違いによって、第1層と第2層のバイオセンサに対するピラミッド効果の違いが現れた。

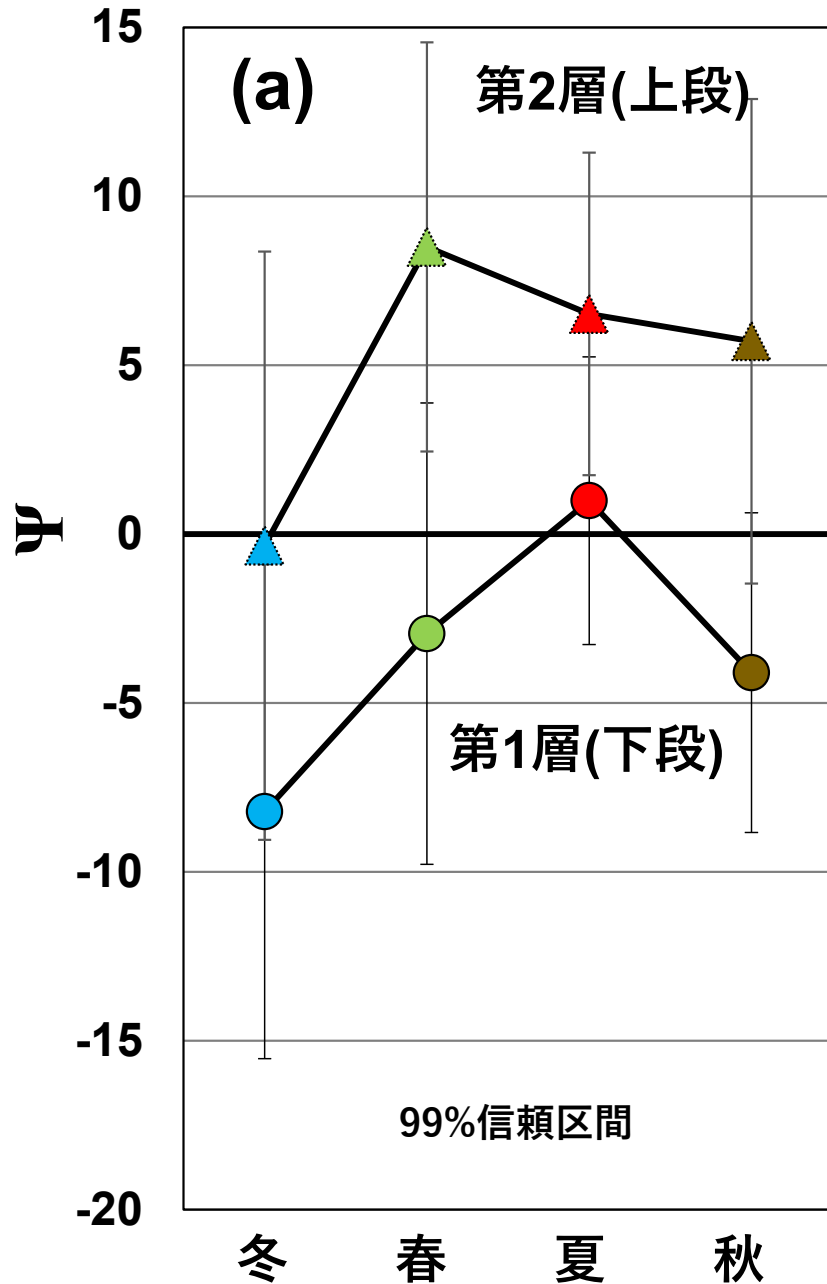
(i) PP実験 (年間データを四季に分けて解析)



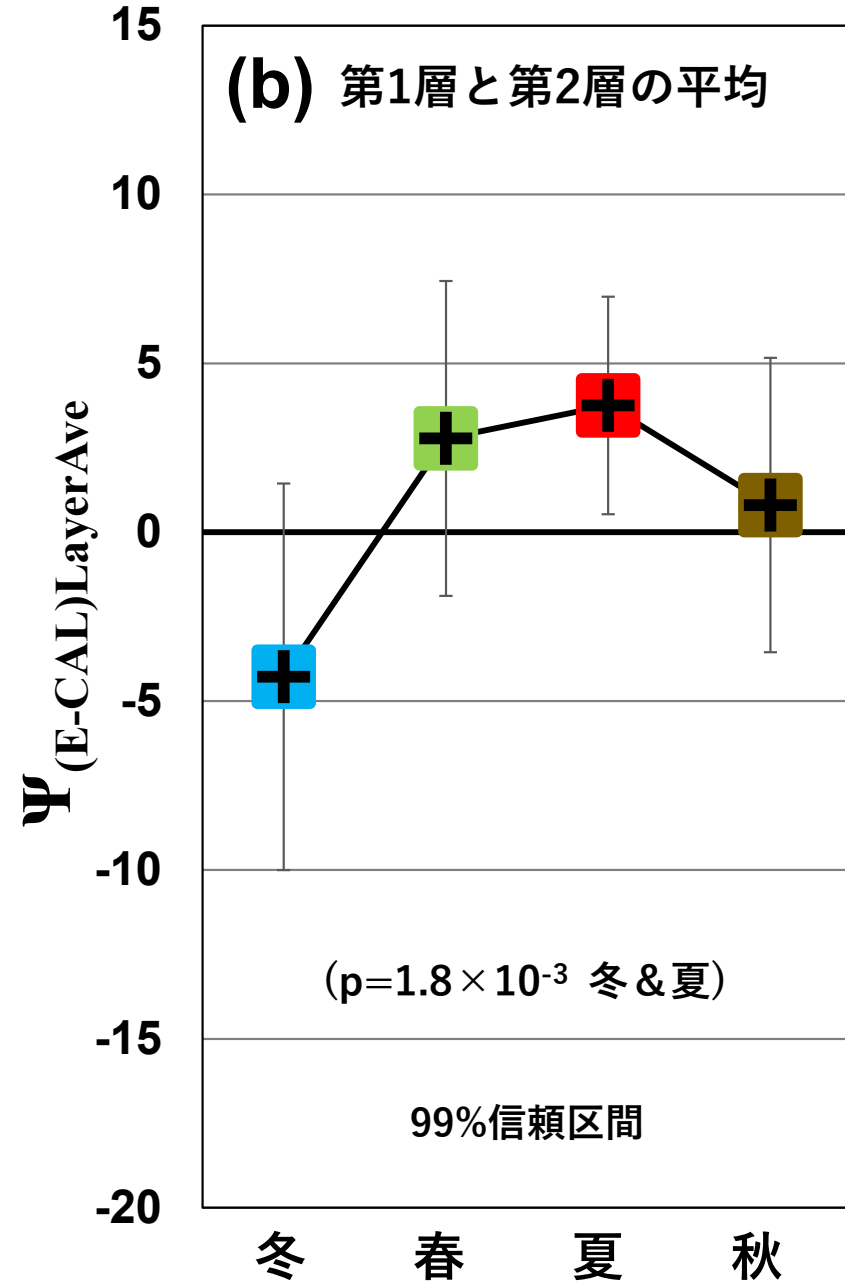
季節に依存する潜在力と依存しない潜在力の2種類の潜在力が存在する

(i) PP実験 (年間データを四季に分けて解析)

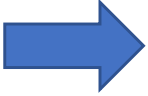
第1層 < 第2層 季節に依存しない



平均値 季節に依存する



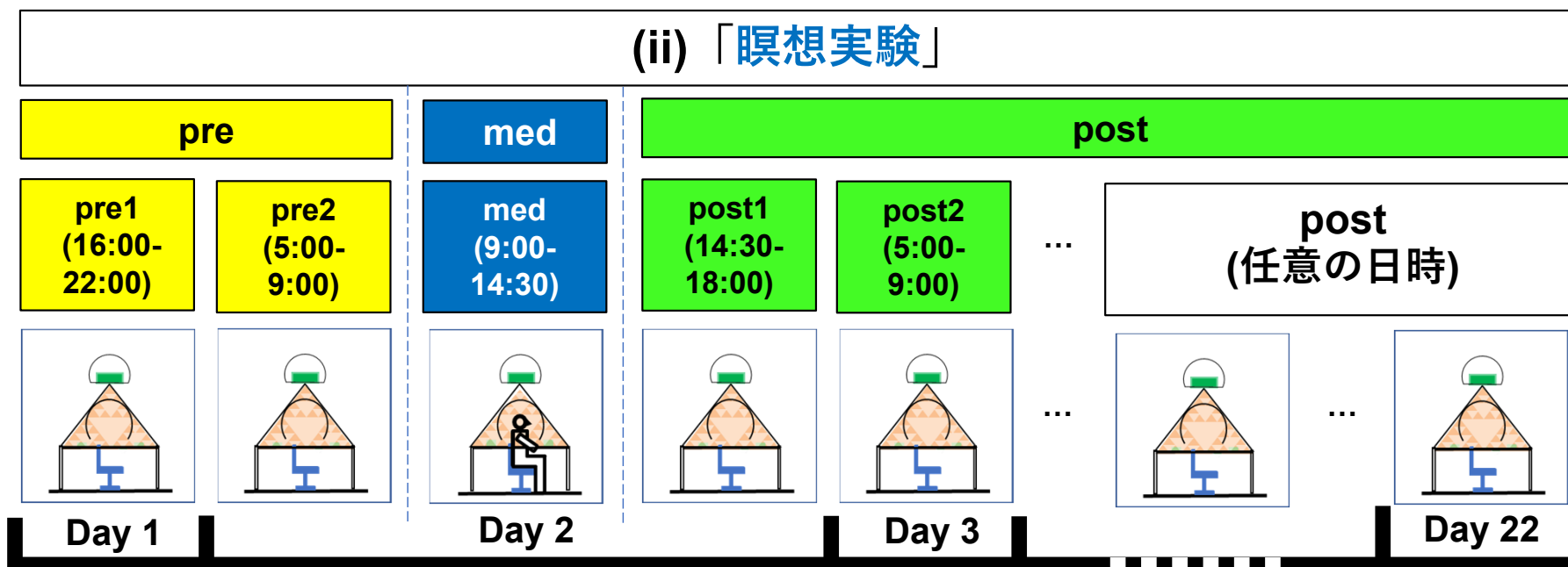
(i) ピラミッドパワー (PP) 実験の結果

- (1) PSの潜在力(ピラミッドパワー)の存在を
実験的に実証 (夏期データ**1%有意**)
- (2) PS頂点に2段に重ねて置いたバイオセンサへの
ピラミッドパワーの影響が下段と上段で異なる
下段：ガス濃度を**抑制**する効果 (**1%有意**)
上段：ガス濃度を**促進**する効果 (**1%有意**)
- (3) **季節に依存しない**ピラミッドパワー ($p=4.0 \times 10^{-7}$ 年間)
季節に依存するピラミッドパワー ($p=1.8 \times 10^{-3}$ 冬&夏)
2種類のピラミッドパワーが存在

後に解釈を修正
(**季節に依存するのは主にBio-Entanglementの影響**)

(ii) 「瞑想実験」

人間（被験者:坂本政道）がピラミッド内で瞑想

瞑想前：pre， 瞑想中：med， 瞑想後：post



pre1の前、20日以上PS内に被験者は入っていない

「瞑想実験」の **med** : PS内で被験者がヘミシンク瞑想



(1)瞑想時間：1回 30分

(2)瞑想回数：午前3回、午後3回（基本）

(3)PS頂点のバイオセンサを、意識せずに瞑想

(4)PS内で瞑想する被験者は、坂本政道

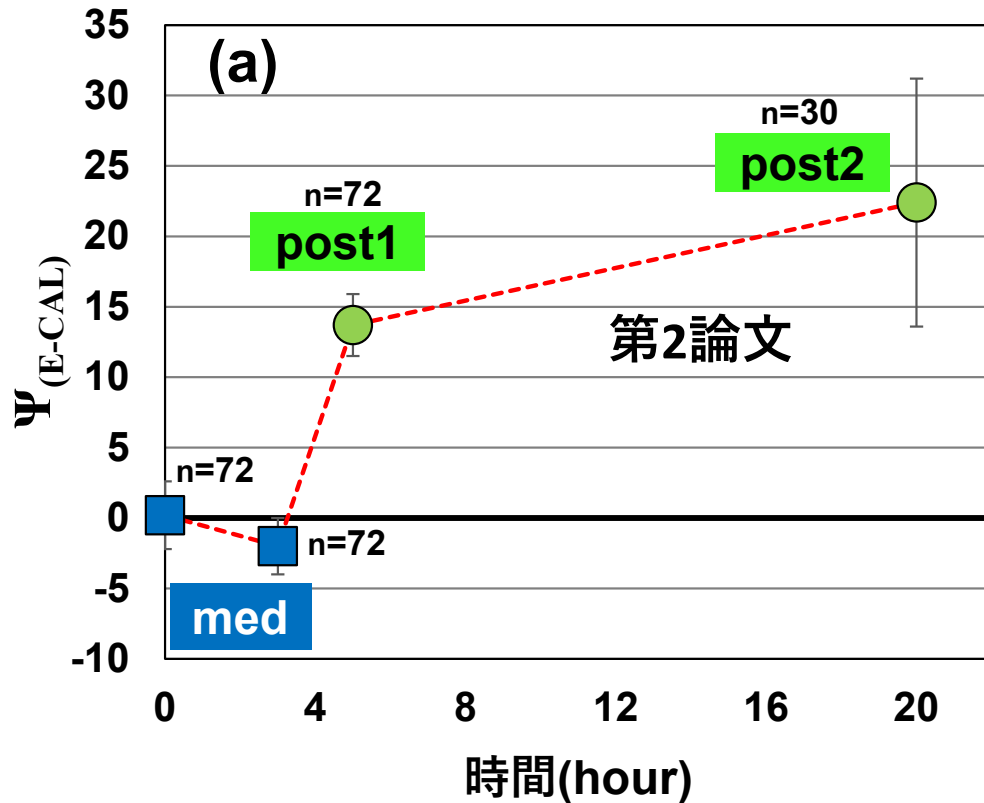
(5)被験者は瞑想後、瞑想中の状態（眠気等）を記録

ヘミシンク（Hemi-Sync®）は、ロバート A・モンローによって開発され、モンロー研究所によって特許取得されたオーディオ・ガイダンス技術。左右の耳に若干周波数の異なる音をヘッドホンで聴かせることにより、変性意識状態に導く技術。深い瞑想状態に導く。

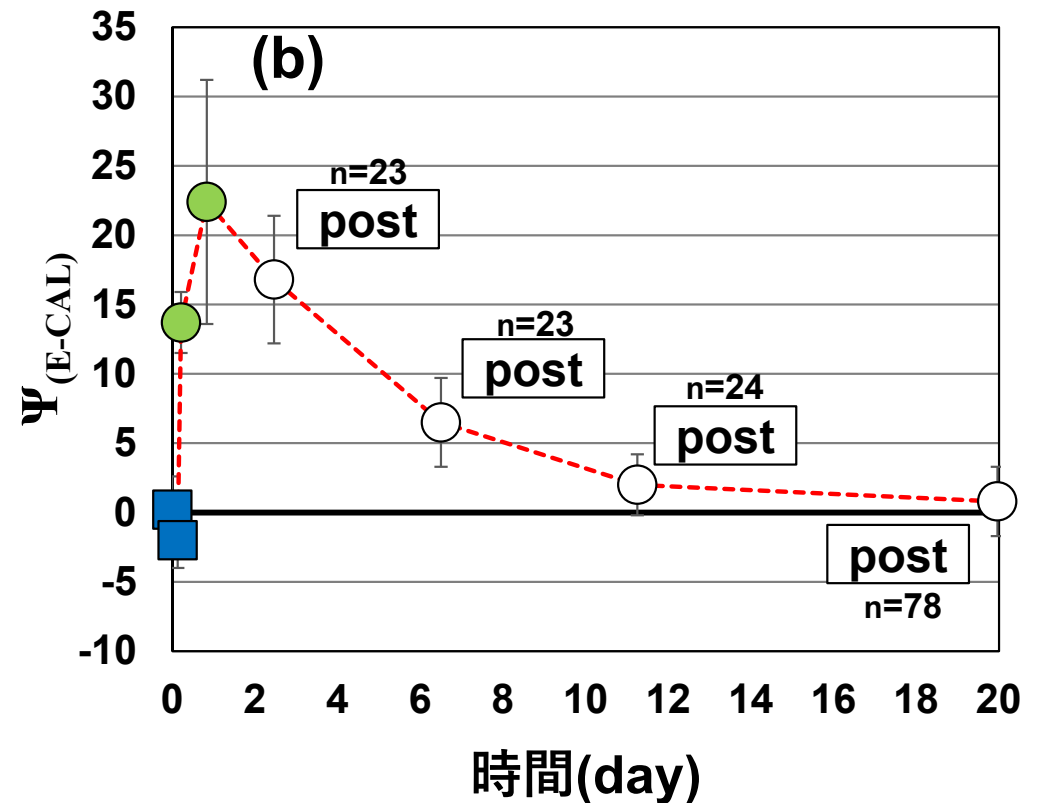
(ii) 瞑想実験の結果

瞑想中：med

瞑想後：post



(a) med, post1, post2の平均値 (標準誤差)
夏期データ：春分～秋分

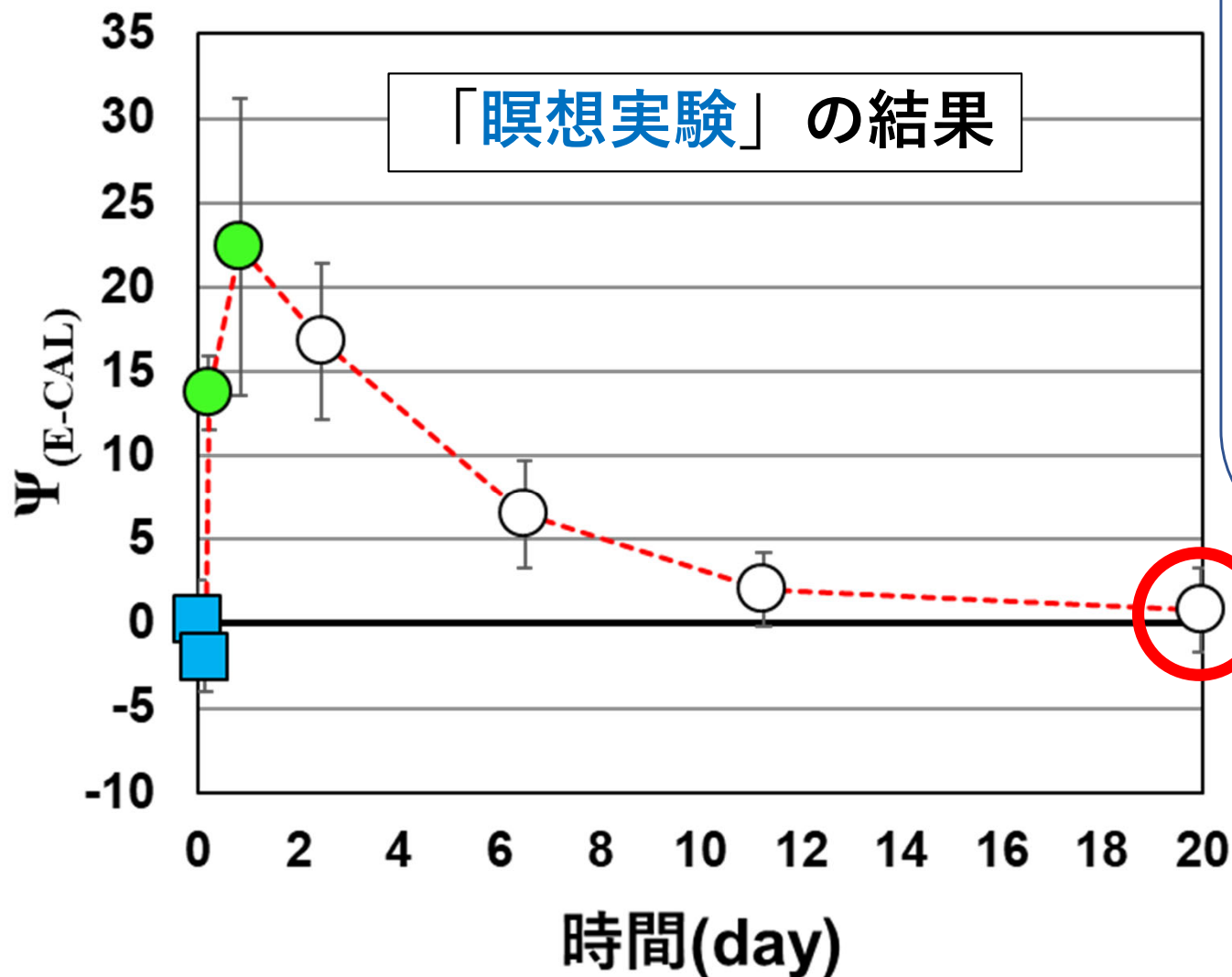


(b) med, post1, post2, postの平均値 (標準誤差)
夏期データ：春分～秋分

瞑想中はピラミッド効果が検出されず、瞑想後にピラミッド効果が検出された
($p=3.5 \times 10^{-6}$ post2 & post20日)

ピラミッド効果の遅延現象が現れた

「ピラミッドパワー (PP) 実験」と「瞑想実験」



瞑想後20日以降は
ピラミッド効果が
検出されない！
瞑想の効果が除かれた状態

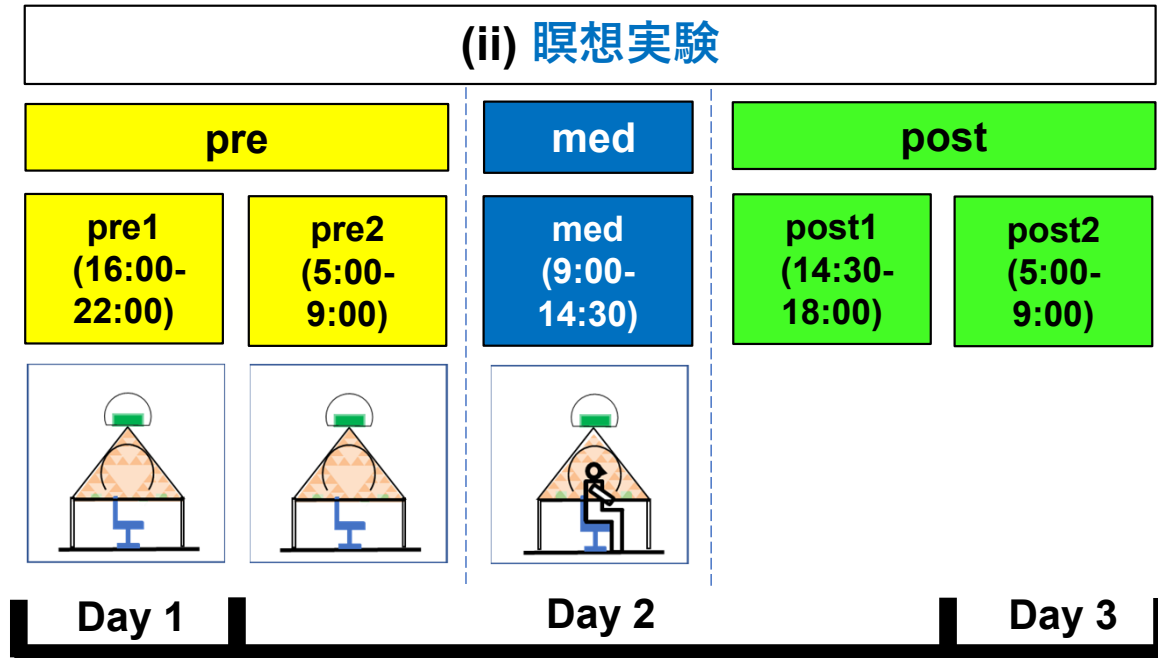


この部分を徹底的に
実験してPSに潜在力
(ピラミッドパワー) がある
かを検証！

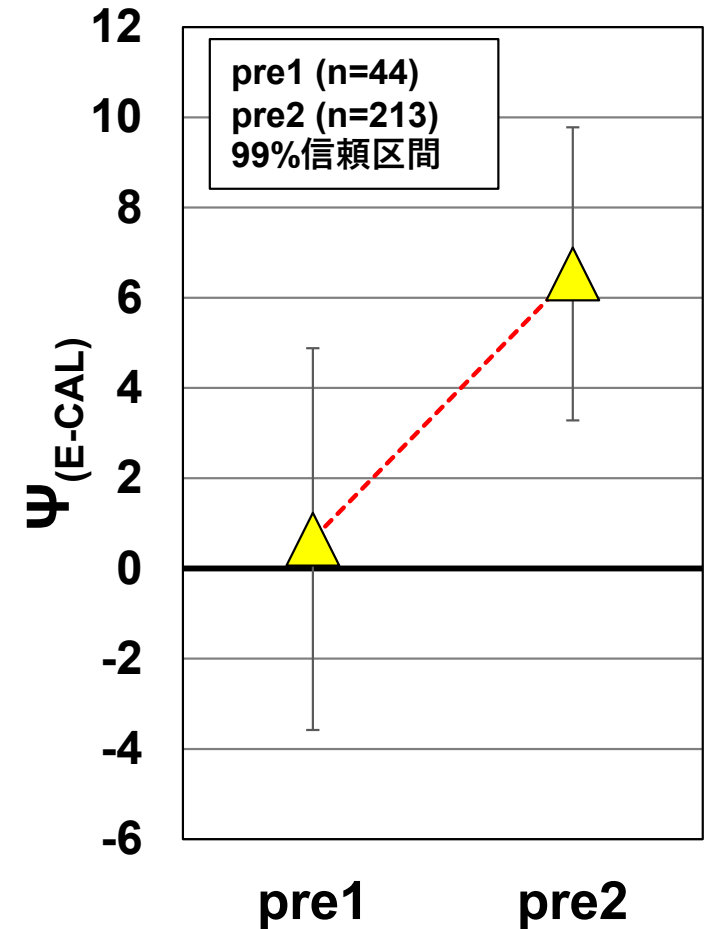
n=78(夏) → n=468(年)

(ii) 瞑想実験の結果

瞑想前：pre



pre1, pre2
PS内部に入る
被験者は
自宅に居た
距離6.55 km



PS内で瞑想を開始する数時間前のpre2でピラミッド効果が検出された(1%有意)

被験者の意識(無意識)のエネルギーをPSが感得し変換した

(ii) 瞑想実験の結果

ピラミッドは エネルギー変換装置

人間から発する2種類の未知エネルギーを変換

瞑想中 ~ **瞑想後** : PS内で被験者が瞑想中に発している未知エネルギーを捉えて、バイオセンサが反応するエネルギーに変換
エネルギーを変換するには時間がかかる(遅延効果)
($p=3.5 \times 10^{-6}$ post2 & post20日)

瞑想前 : 被験者の意識(無意識)エネルギーを捉えて変換
リアルタイムでエネルギーを変換している可能性(1%有意)

ピラミッドパワー (PP) 実験

データ (n=468) のさらなる詳細な解析



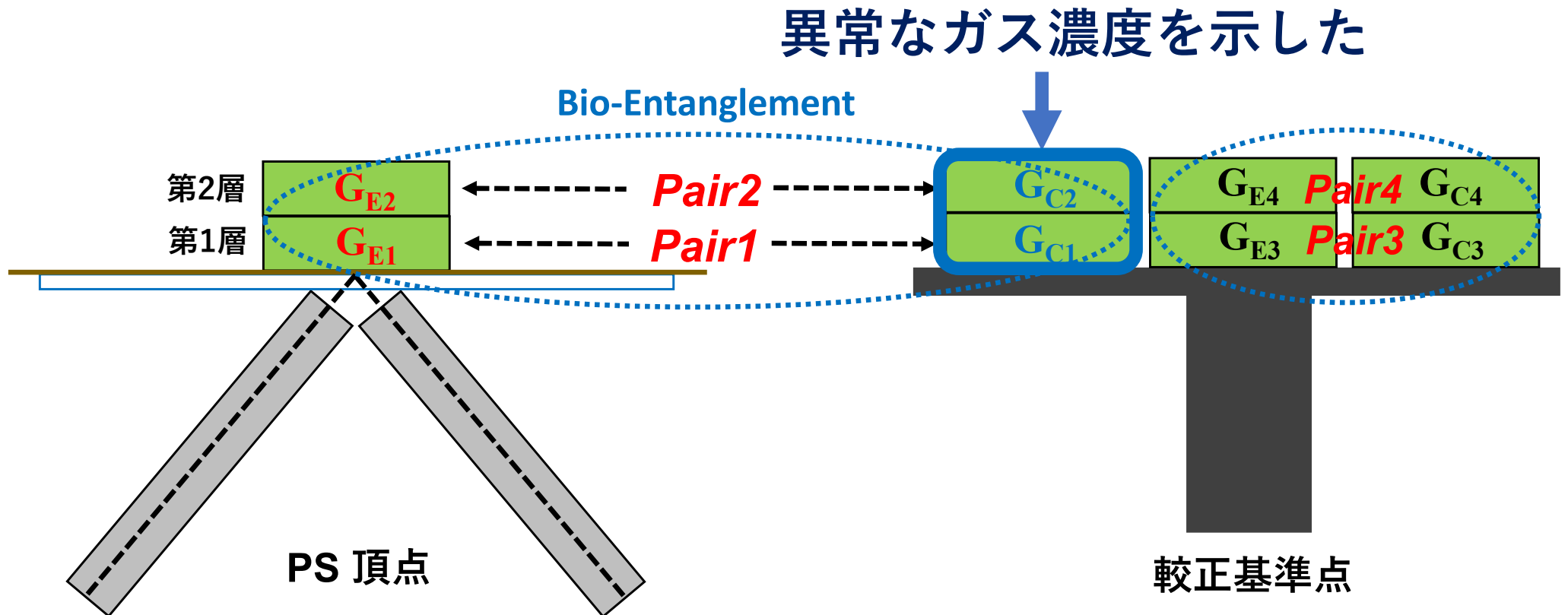
ピラミッド効果によるバイオセンサ間に
“絡み合い”

Bio-Entanglement
の発見

ガス濃度 G_{C1}, G_{C2} の異常 (G_{C1}, G_{C2} は G_{E1}, G_{E2} とペア)



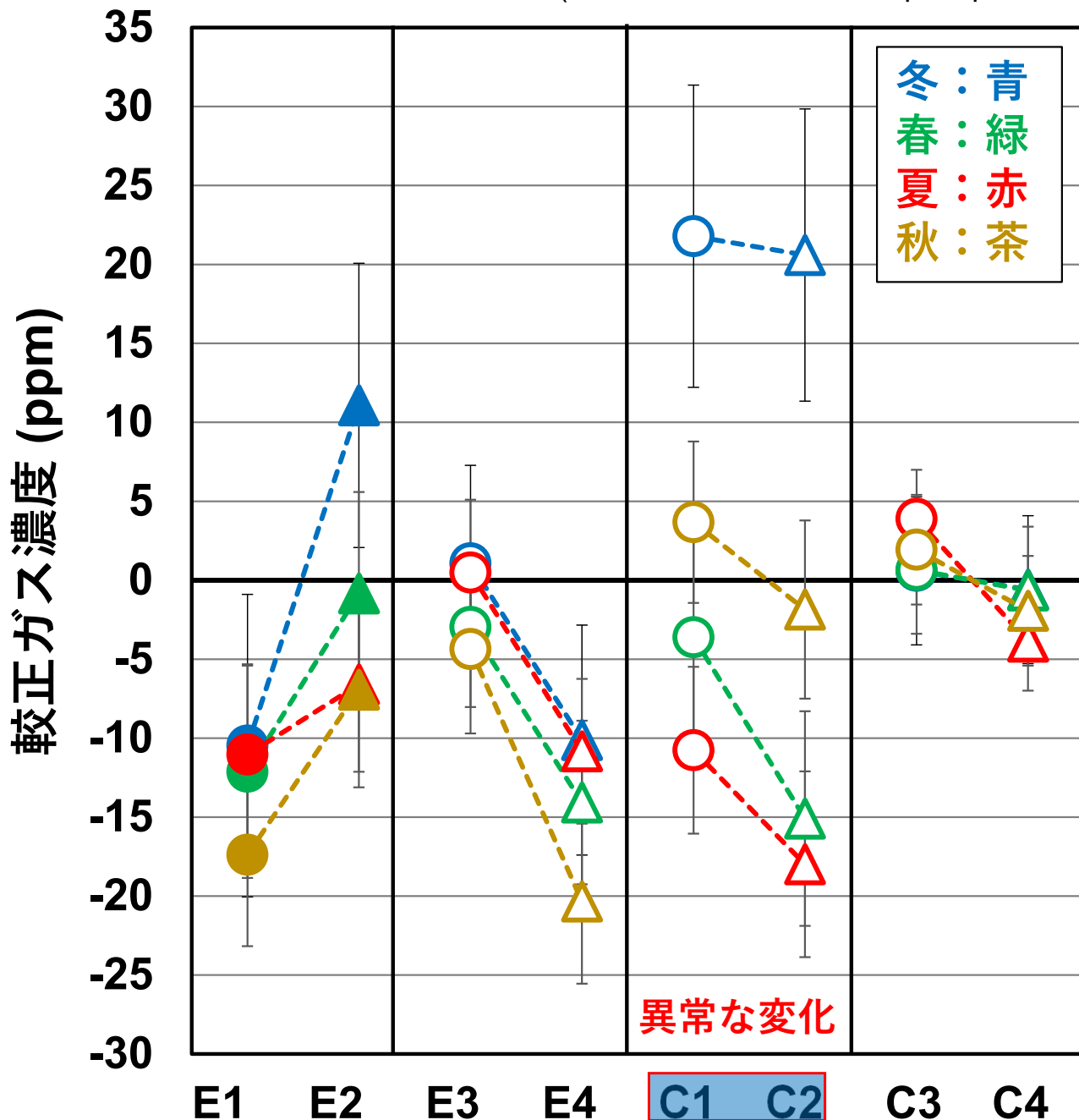
ペア間に **Bio-Entanglement** が存在すると仮説をたてた



ガス濃度 G_{C1}, G_{C2} の異常 ガス濃度の解析

($G_{C3}+G_{C4}$)/2 で較正したガス濃度平均の比較

(被験者の影響なしデータ pre1,pre2以外, SE)



○下段、△上段

較正ガス濃度

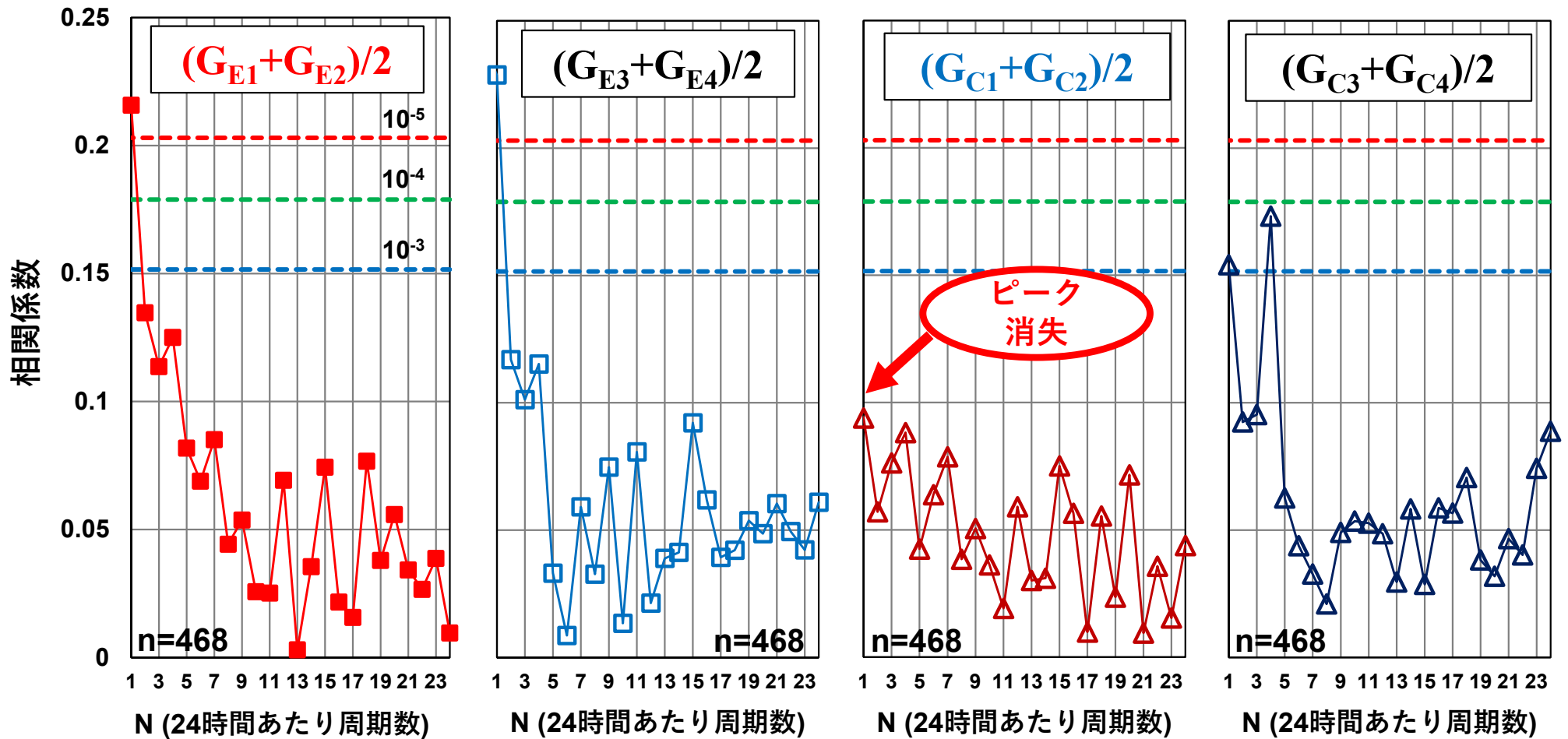
$$\begin{aligned}
 E1 &= G_{E1} - (G_{C3} + G_{C4}) / 2, \\
 E2 &= G_{E2} - (G_{C3} + G_{C4}) / 2, \\
 E3 &= G_{E3} - (G_{C3} + G_{C4}) / 2, \\
 E4 &= G_{E4} - (G_{C3} + G_{C4}) / 2, \\
 C1 &= G_{C1} - (G_{C3} + G_{C4}) / 2, \\
 C2 &= G_{C2} - (G_{C3} + G_{C4}) / 2, \\
 C3 &= G_{C3} - (G_{C3} + G_{C4}) / 2, \\
 C4 &= G_{C4} - (G_{C3} + G_{C4}) / 2.
 \end{aligned}$$

E1-E4やC3,C4と較べて、
C1とC2のガス濃度の
季節による偏差が大きい

E1,E2が右上がり、他は
すべて右下がりになっている
理由は、ピラミッドパ
ワーが、ガス濃度に影響を
与えていることを示唆

ガス濃度 G_{C1}, G_{C2} の異常

ガス濃度の日内変動（ガス濃度と周期近似曲線との相関係数）

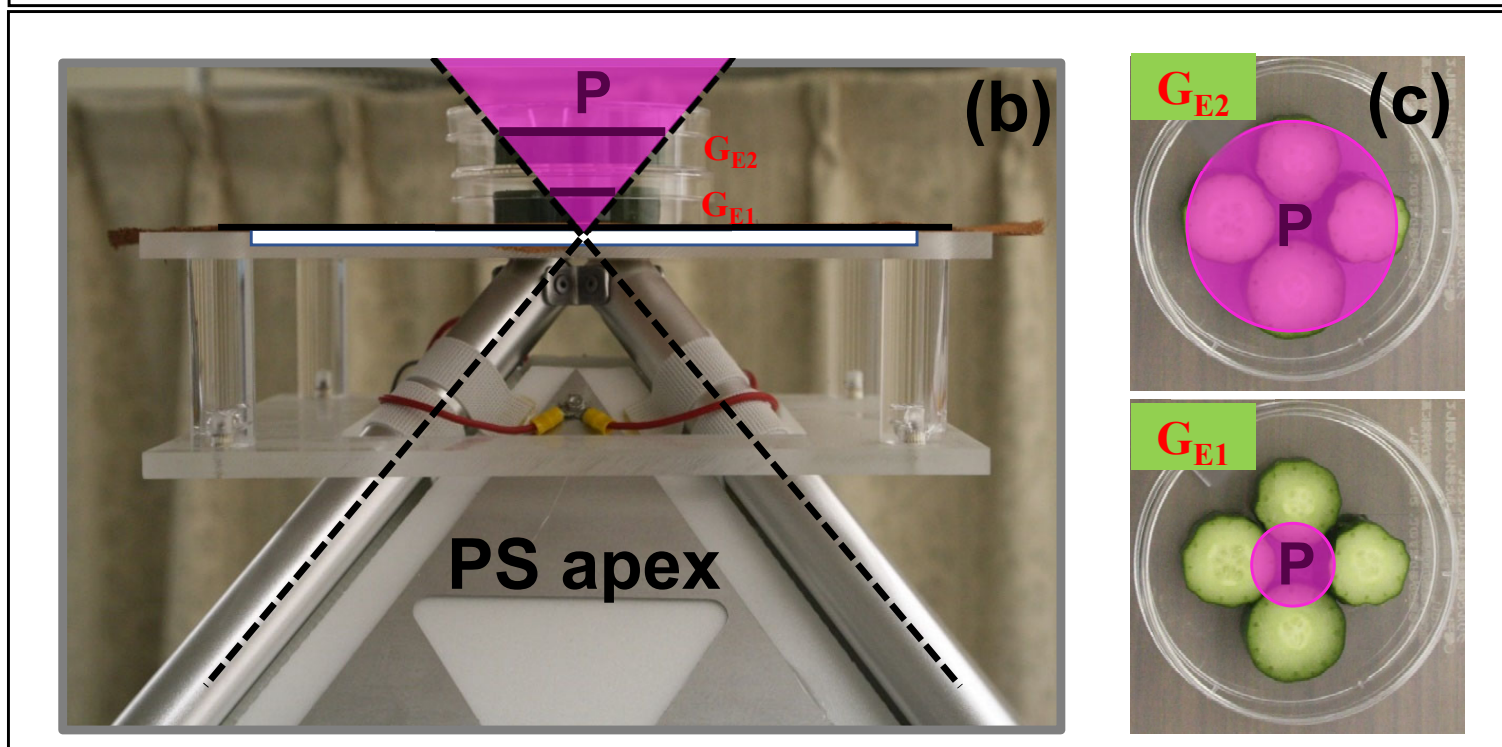
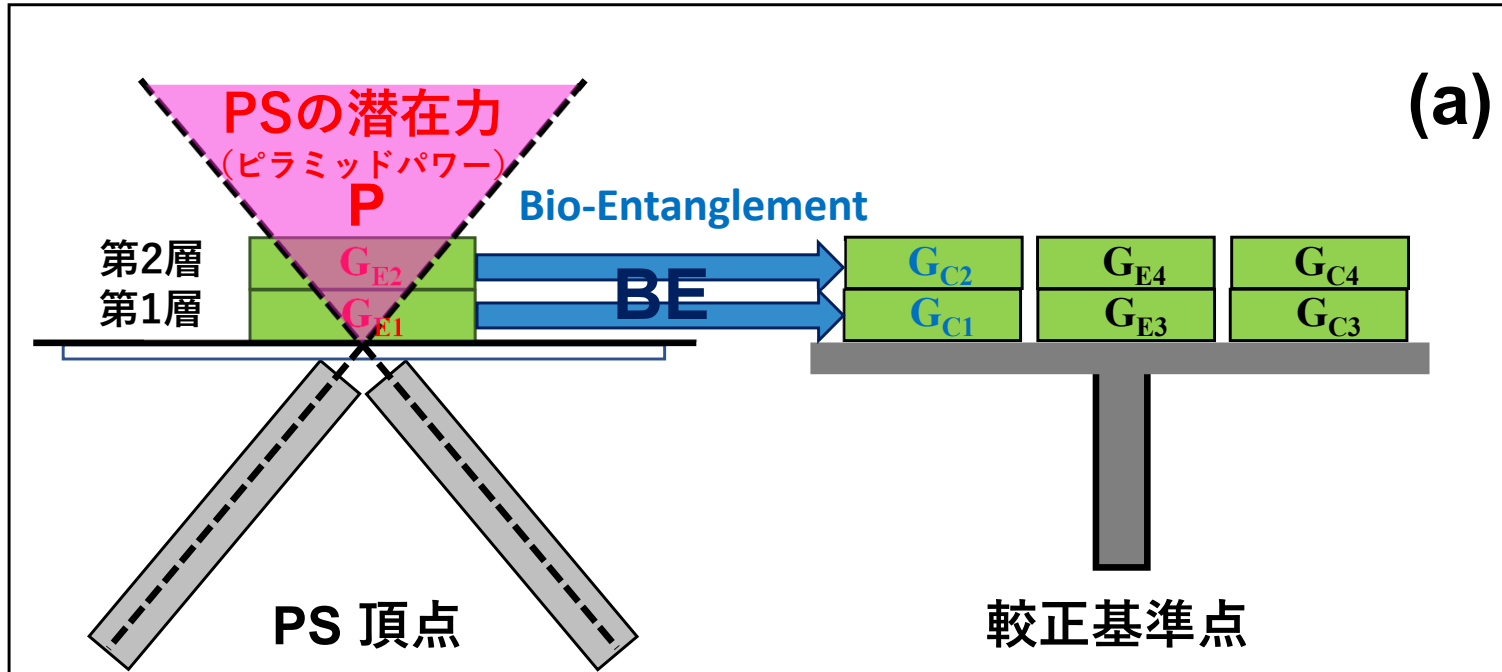


$(G_{C1}+G_{C2})/2$ の場合、 $N=1$ 付近で相関係数のピークが現れず、他の場合とは異なる結果を得た
 $(G_{C1}+G_{C2})/2$ は、PSの潜在力の影響を受けた $(G_{E1}+G_{E2})/2$ のペアである。ペア間の Bio-Entanglement が、
 ガス濃度の日内変動の周期性に影響を及ぼしたと結論した

破線は相関係数の有意性の度合い ($n=468$)、**破線赤**: $0.203, p=10^{-5}$, **破線緑**: $0.178, p=10^{-4}$, **破線青**: $0.152, p=10^{-3}$.

Bio-Entanglement によって、ガス濃度 $(G_{C1}+G_{C2})/2$ の日内変動の周期性が失われた

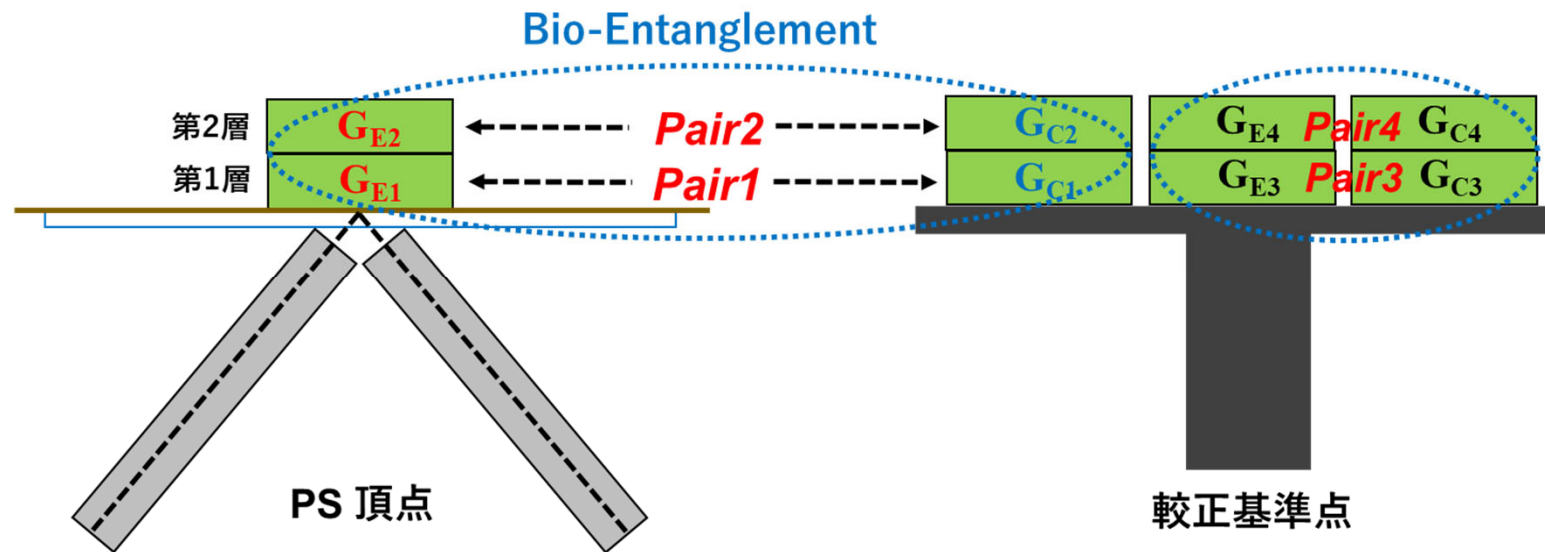
ガス濃度 G_{C1} , G_{C2} の異常を説明するため Bio-Entanglementの存在を仮定したモデル



ピラミッド効果の指標：サイ指数 Ψ

$$\Psi_1 = 100 \ln(G_{E1} / G_{C1})$$

$$\Psi_2 = 100 \ln(G_{E2} / G_{C2})$$



サイ指数 Ψ の中に

- ・ **PSの潜在力**の影響を受けたガス濃度： G_{E1} , G_{E2}
 - ・ **Bio-Entanglement**の影響を受けたガス濃度： G_{C1} , G_{C2}
- が混在している

サイ指数 Ψ の中には、**Bio-Entanglement**の影響が含まれているため、 Ψ は本来の**PSの潜在力**を表していない：サイ指数 Ψ を、**PSの潜在力**による効果と**Bio-Entanglement**の効果とに分離できるかを検討

サイ指数 Ψ を、PSの潜在力（サイプライム指数 Ψ' ）と バイオ-エンタングルメント（サイダブルプライム指数 Ψ'' ）に分離

サイ指数： Ψ

PSの潜在力 + バイオ-エンタングルメント
 によるピラミッド効果

$$\begin{aligned} \Psi_1 &= 100 \ln(G_{E1}/G_{C1}), \\ \Psi_2 &= 100 \ln(G_{E2}/G_{C2}), \\ \Psi_3 &= 100 \ln(G_{E3}/G_{C3}), \\ \Psi_4 &= 100 \ln(G_{E4}/G_{C4}). \end{aligned} \quad (1)$$

$$\begin{aligned} \Psi_{1(E-CAL)} &= \Psi_1 - (\Psi_3 + \Psi_4)/2, \\ \Psi_{2(E-CAL)} &= \Psi_2 - (\Psi_3 + \Psi_4)/2, \\ \Psi_{3(E-CAL)} &= \Psi_3 - (\Psi_3 + \Psi_4)/2, \\ \Psi_{4(E-CAL)} &= \Psi_4 - (\Psi_3 + \Psi_4)/2. \end{aligned} \quad (2)$$

$$\Psi_{(E-CAL)} = (\Psi_{1(E-CAL)} + \Psi_{2(E-CAL)})/2. \quad (3)$$

$$\begin{aligned} \Psi_{1(E-CAL)Layer1} &= \Psi_{1(E-CAL)} - \Psi_{3(E-CAL)} \\ &= \Psi_1 - \Psi_3 = 100 \ln(G_{E1}G_{C3}/G_{E3}G_{C1}), \\ \Psi_{2(E-CAL)Layer2} &= \Psi_{2(E-CAL)} - \Psi_{4(E-CAL)} \\ &= \Psi_2 - \Psi_4 = 100 \ln(G_{E2}G_{C4}/G_{E4}G_{C2}). \end{aligned} \quad (4)$$

$$\begin{aligned} \Psi_{(E-CAL)LayerAve} &= (\Psi_{1(E-CAL)Layer1} + \Psi_{2(E-CAL)Layer2})/2 \\ &= \Psi_{(E-CAL)}. \end{aligned} \quad (5)$$

サイプライム指数： Ψ'

PSの潜在力
 によるピラミッド効果

$$\begin{aligned} \Psi'_1 &= 100 \ln(G_{E1}/G_{C3}), \\ \Psi'_2 &= 100 \ln(G_{E2}/G_{C4}), \\ \Psi'_3 &= \Psi_3 = 100 \ln(G_{E3}/G_{C3}), \\ \Psi'_4 &= \Psi_4 = 100 \ln(G_{E4}/G_{C4}). \end{aligned} \quad (6)$$

$$\begin{aligned} \Psi'_{1(E-CAL)} &= \Psi'_1 - (\Psi'_3 + \Psi'_4)/2, \\ \Psi'_{2(E-CAL)} &= \Psi'_2 - (\Psi'_3 + \Psi'_4)/2, \\ \Psi'_{3(E-CAL)} &= \Psi'_3 - (\Psi'_3 + \Psi'_4)/2, \\ \Psi'_{4(E-CAL)} &= \Psi'_4 - (\Psi'_3 + \Psi'_4)/2. \end{aligned} \quad (7)$$

$$\Psi'_{(E-CAL)} = (\Psi'_{1(E-CAL)} + \Psi'_{2(E-CAL)})/2. \quad (8)$$

$$\begin{aligned} \Psi'_{1(E-CAL)Layer1} &= \Psi'_{1(E-CAL)} - \Psi'_{3(E-CAL)} \\ &= \Psi'_1 - \Psi'_3 = 100 \ln(G_{E1}/G_{E3}), \\ \Psi'_{2(E-CAL)Layer2} &= \Psi'_{2(E-CAL)} - \Psi'_{4(E-CAL)} \\ &= \Psi'_2 - \Psi'_4 = 100 \ln(G_{E2}/G_{E4}). \end{aligned} \quad (9)$$

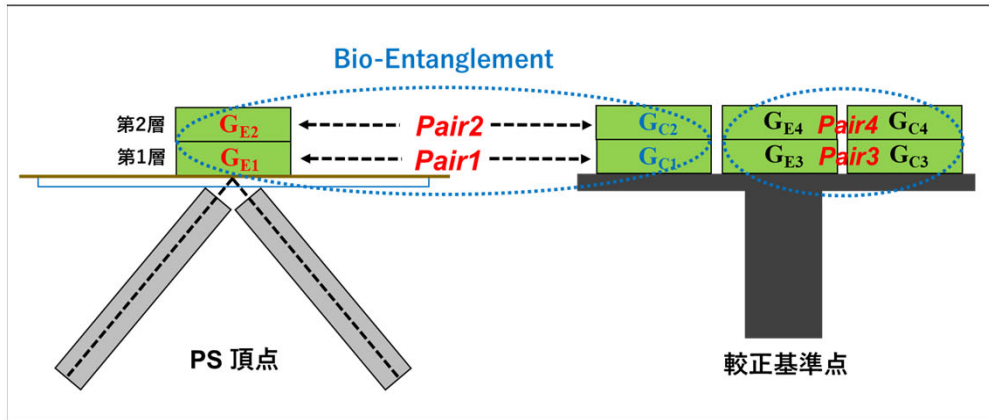
$$\begin{aligned} \Psi'_{(E-CAL)LayerAve} &= (\Psi'_{1(E-CAL)Layer1} + \Psi'_{2(E-CAL)Layer2})/2 \\ &= \Psi'_{(E-CAL)}. \end{aligned} \quad (10)$$

サイダブルプライム指数： Ψ''

バイオ-エンタングルメント
 によるピラミッド効果

$$\begin{aligned} \Psi''_{Layer1} &= \Psi_{1(E-CAL)Layer1} - \Psi'_{1(E-CAL)Layer1} \\ &= 100 \ln(G_{C3}/G_{C1}), \\ \Psi''_{Layer2} &= \Psi_{2(E-CAL)Layer2} - \Psi'_{2(E-CAL)Layer2} \\ &= 100 \ln(G_{C4}/G_{C2}). \end{aligned} \quad (11)$$

$$\Psi''_{LayerAve} = (\Psi''_{Layer1} + \Psi''_{Layer2})/2. \quad (12)$$



サイ指数 Ψ を **PSの潜在力 Ψ'** と **Bio-Entanglement Ψ''** に分離した結果：表式の比較

サイ指数： Ψ (**PSの潜在力の効果** と **Bio-Entanglementの効果** が混在している)

$$\Psi_{1(\text{E-CAL})\text{Layer1}} = 100 \ln(G_{E1} G_{C3} / G_{E3} G_{C1}) \quad \text{第1層(下段)}$$

$$\Psi_{2(\text{E-CAL})\text{Layer2}} = 100 \ln(G_{E2} G_{C4} / G_{E4} G_{C2}) \quad \text{第2層(上段)}$$

サイプライム指数： Ψ' (**PSの潜在力の効果** のみで表現)

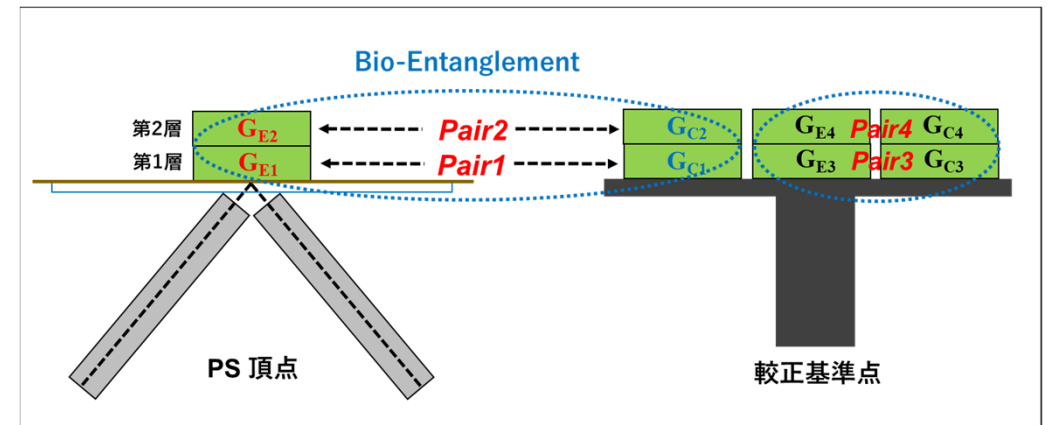
$$\Psi'_{1(\text{E-CAL})\text{Layer1}} = 100 \ln(G_{E1} / G_{E3}) \quad \text{第1層(下段)}$$

$$\Psi'_{2(\text{E-CAL})\text{Layer2}} = 100 \ln(G_{E2} / G_{E4}) \quad \text{第2層(上段)}$$

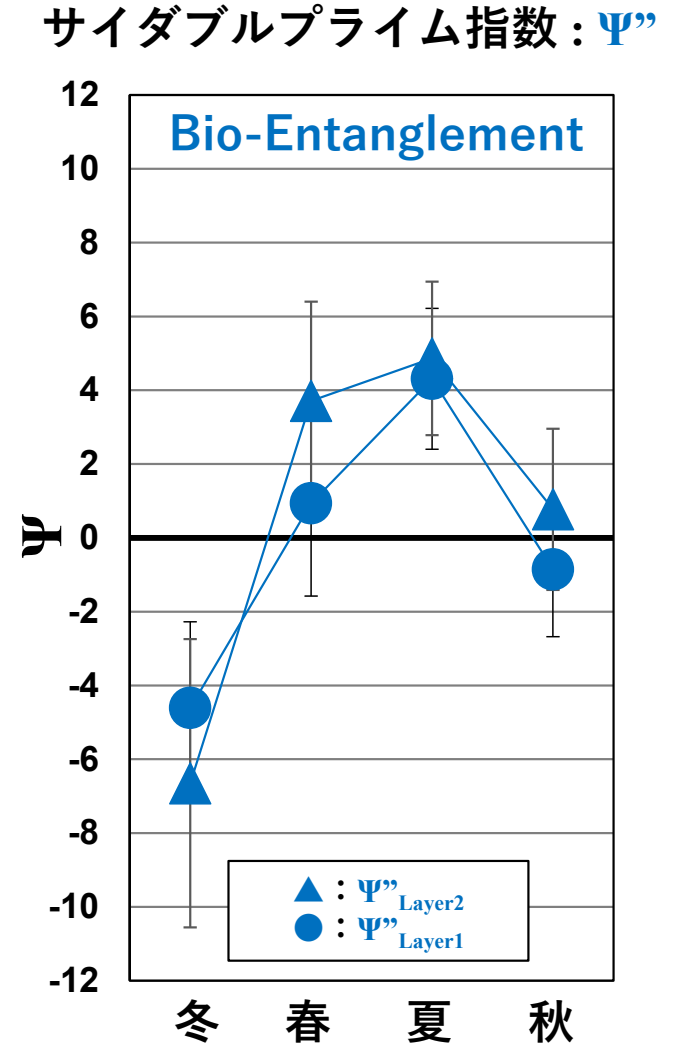
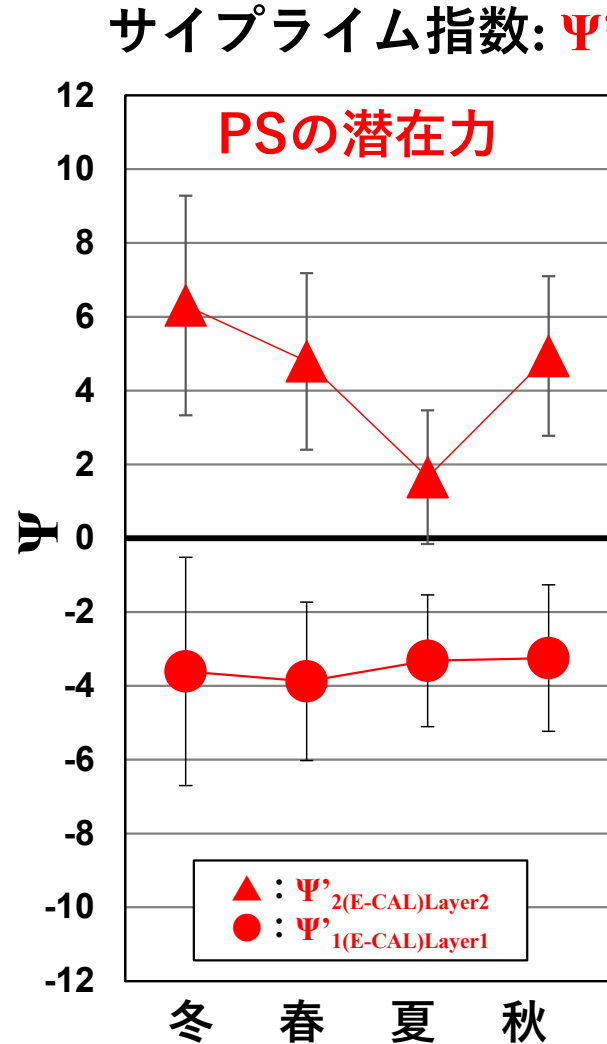
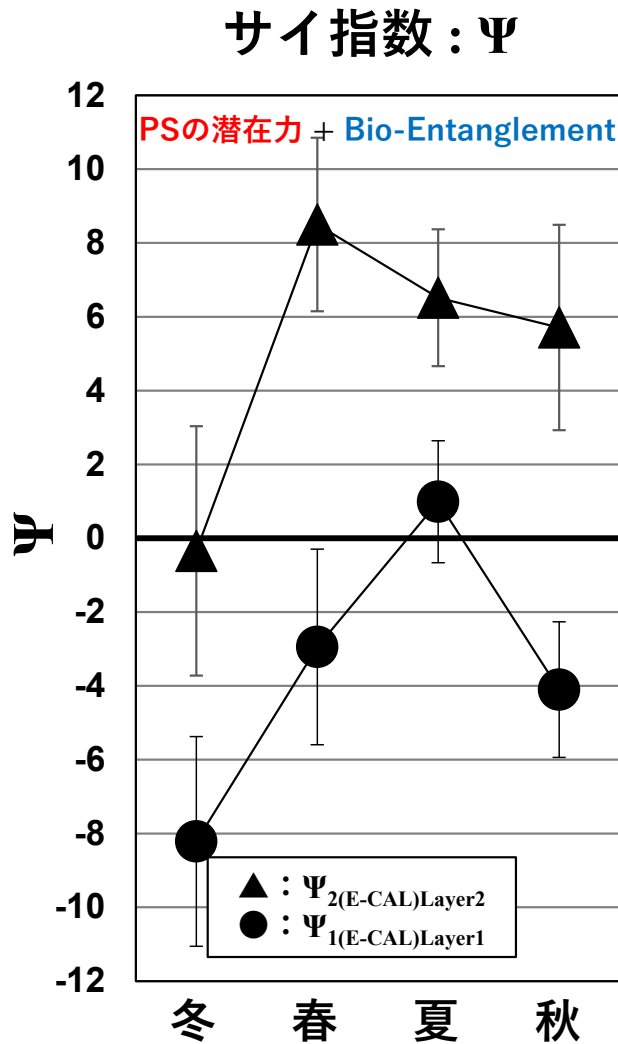
サイダブルプライム指数： Ψ'' (**Bio-Entanglementの効果** のみで表現)

$$\Psi''_{\text{Layer1}} = 100 \ln(G_{C3} / G_{C1}) \quad \text{第1層(下段)}$$

$$\Psi''_{\text{Layer2}} = 100 \ln(G_{C4} / G_{C2}) \quad \text{第2層(上段)}$$



サイ指数 Ψ をPSの潜在力による効果 Ψ' と Bio-Entanglementによる効果 Ψ'' に分離した結果 (PP実験データn=468)

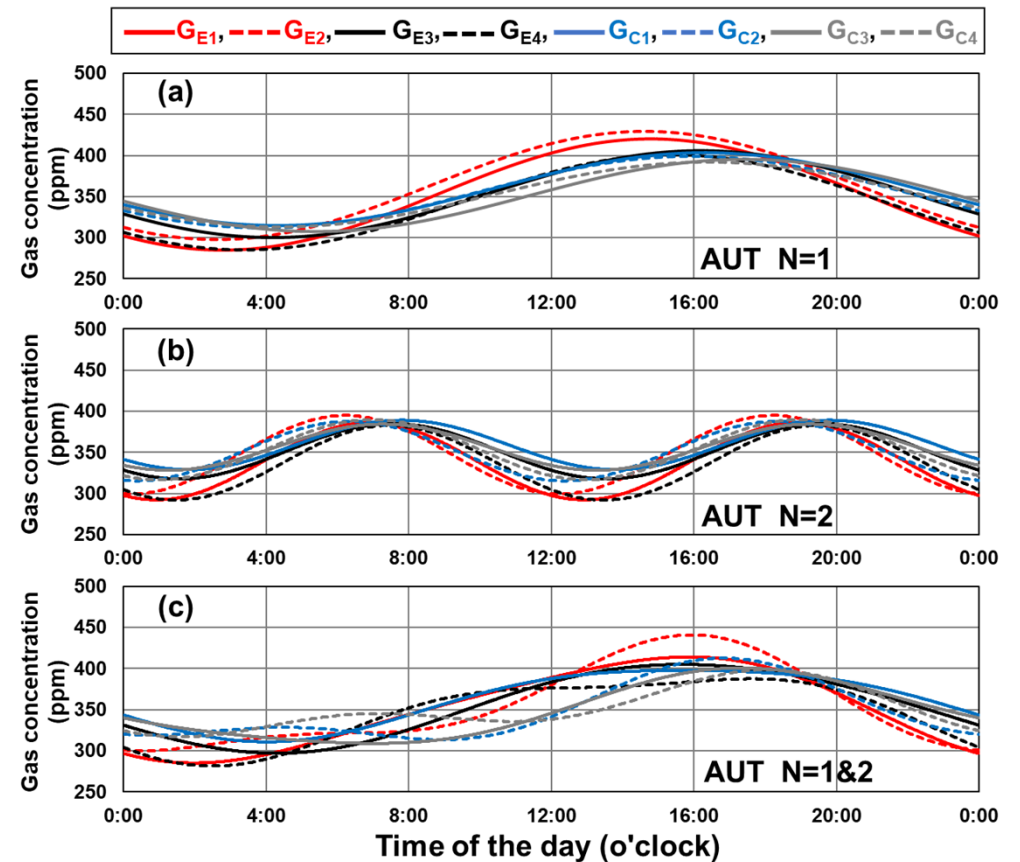
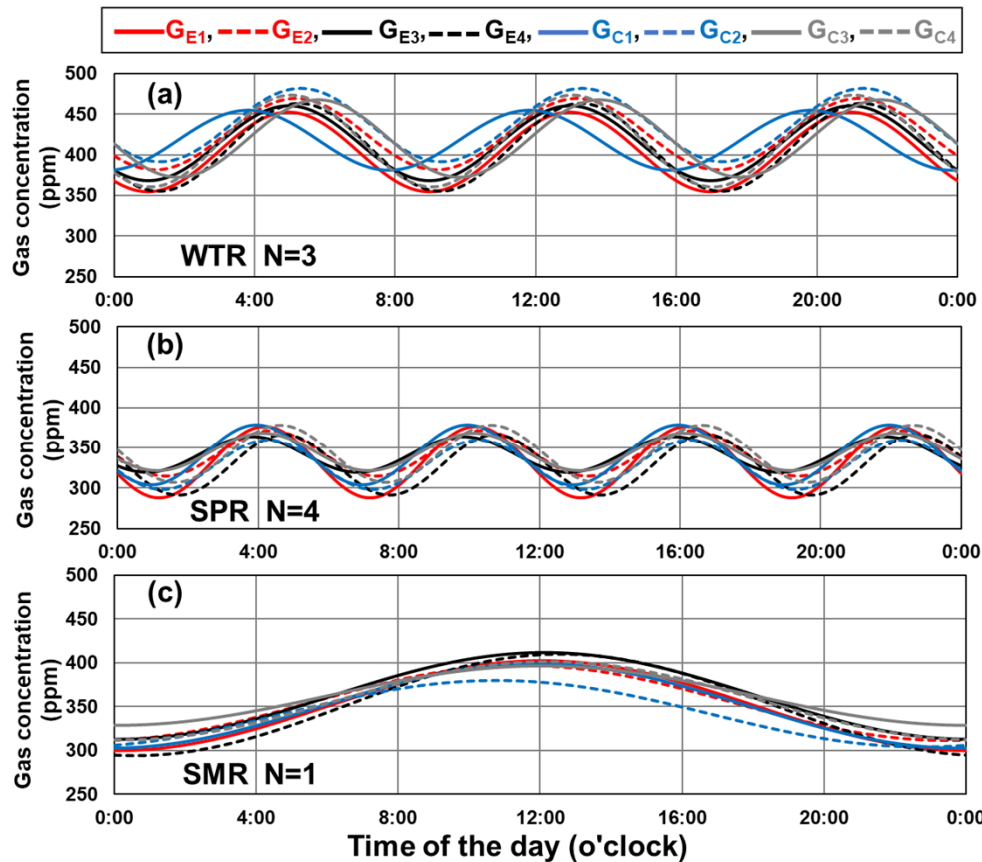


サイ指数 Ψ による
ピラミッド効果の特徴

1. Layer1 < Layer2
2. ピラミッド効果が季節変化する

サイ指数 Ψ には、PSの潜在力と、Bio-Entanglementが混在。それぞれを分離した結果、ピラミッド効果が、**Layer1 < Layer2**となる要因は主に**PSの潜在力**の影響で、ピラミッド効果の**季節変化**の要因は主に**Bio-Entanglement**の影響であることが判明した。

PSの潜在力とBio-Entanglementが ガス濃度の周期近似曲線（概日リズム）の位相に与える影響

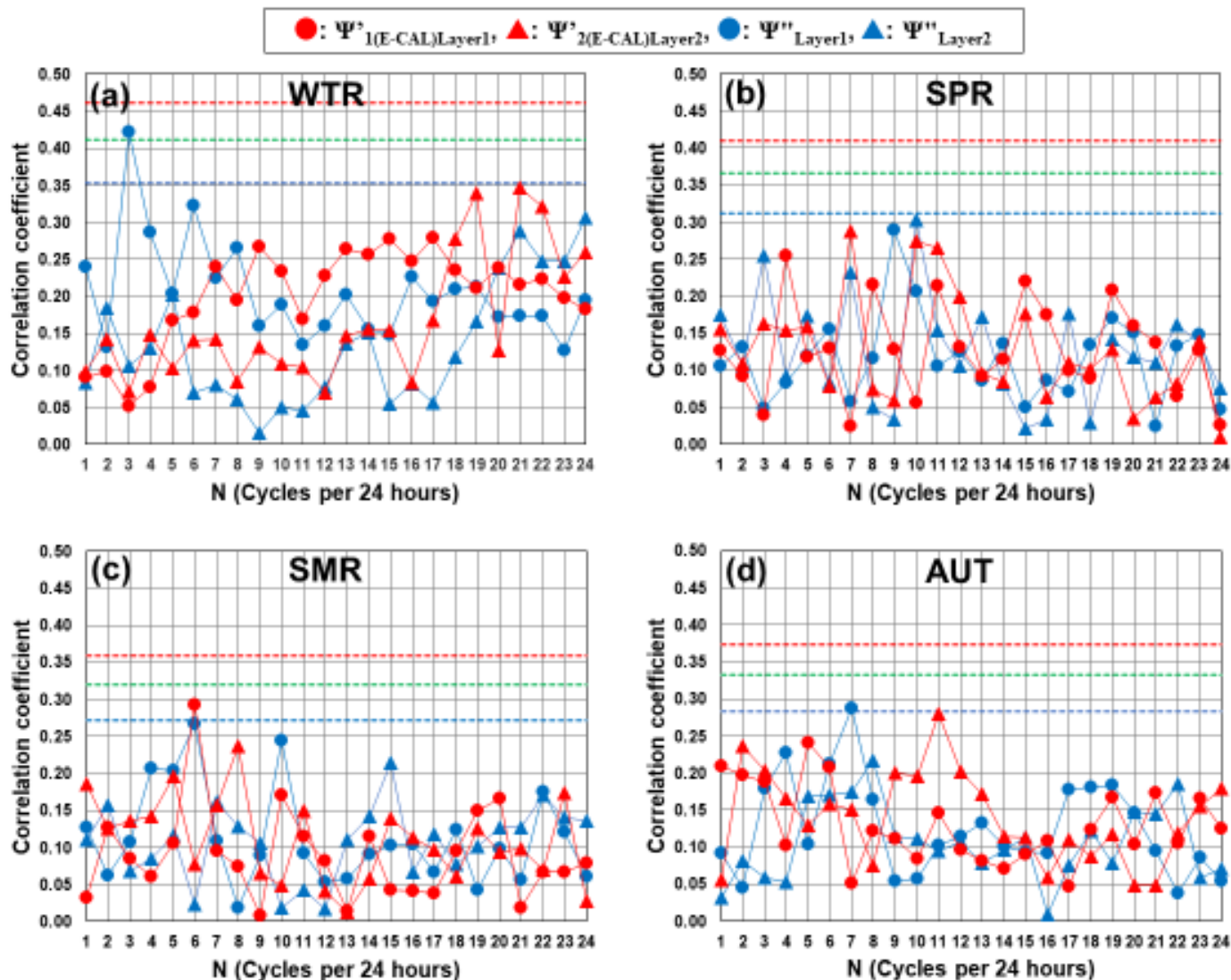


PSの潜在力とBio-Entanglementは、ガス濃度の概日リズムを表す周期近似曲線の位相に影響を与えた

- (1) PS頂点で、ガス濃度 G_{E1} （下段）と G_{E2} （上段）の概日リズムの位相は、PSの潜在力により、 G_{E1} の位相に対して、 G_{E2} の位相の方が12.5分、左にずれた。
- (2) 較正基準点で、ガス濃度 G_{C1} （下段）と G_{C2} （上段）の概日リズムの位相は、Bio-Entanglementにより、 G_{C1} の位相に対して、 G_{C2} の位相の方が13.5分、左にずれた。
- (3) PS頂点と較正基準点の G_{E2} （上段）と G_{E4} （上段）では、PSの潜在力によって G_{E4} より G_{E2} の位相が43分、左にずれた。

PSの潜在力(ピラミッドパワー)とBio-Entanglementが、位相差(時間)に対して影響していることを初めて実証

PSの潜在力とBio-Entanglementの日内振動



PSの潜在力を表す
サイプライム指数

$\Psi^1_{(E-CAL)Layer1}$,
 $\Psi^2_{(E-CAL)Layer2}$
とその周期近似曲線との
相関係数

Bio-Entanglementを表す
サイダブルプライム指数

Ψ''_{Layer1} ,
 Ψ''_{Layer2}
とその周期近似曲線との
相関係数

PSの潜在力（ピラミッドパワー）とBio-Entanglement
ほぼ周期的な日内振動はしていないという結論を得た

ピラミッドパワーが、常に一定の影響力を及ぼしている静電場や静磁場などのような
場の一種であることを初めて示した

メニューへもどる